14.5
415

14. 5-415
1200501217064

調查資料 第九輯 中華民國電氣事業 第一卷

滿洲電業股份有限公司調查課編

始

145-415

調査資料第九輯
昭和十年五月

中華民國電氣事業

第一卷

江蘇省・浙江省

滿洲電業股份有限公司調査課

凡例

一　本書は業務資料として調査蒐集せるものなり。

二　第一編總論は民國二十一年現在を主とし、第二編以降各省電氣事業は同年現在を基幹とし出來る丈け最近の調査を記述せる爲其間數字の差異あり。

三　資料の正確を期したるも調査不充分の爲尚缺陷あれど取敢ず上稿し後日改版訂正を期す。

四　本書は當課員藤井忠一、中上辰一をして擔任せしめたり。

昭和十年四月

滿洲電業股份有限公司調査課

同公司寄贈本

14,5-415

中華民國電氣事業 第一卷 目次

中華民國電氣事業分布圖

第一編 總論……一

梗概

第一章 電氣事業者數……一

第二章 資本關係……二

第三章 電氣方式 原動機 水力……四

第四章 指導機關……六

第二編 江蘇省電氣事業……七

江蘇省主要電氣事業所在地圖

梗概

第一章 概說……一〇

年號早見表

年號 日本		中國		西洋	年號 日本		中國		西洋
明治	17	光緒	10	西曆 1884	大正	1	民國	1	1912
	18		11	1885		2		2	1913
	19		12	1886		3		3	1914
	20		13	1887		4		4	1915
	21		14	1888		5		5	1916
	22		15	1889		6		6	1917
	23		16	1890		7		7	1918
	24		17	1891		8		8	1919
	25		18	1892		9		9	1920
	26		19	1893		10		10	1921
	27		20	1894		11		11	1922
	28		21	1895		12		12	1923
	29		22	1896		13		13	1924
	30		23	1897		14		14	1925
	31		24	1898	昭和	1		15	1926
	32		25	1899		2		16	1927
	33		26	1900		3		17	1928
	34		27	1901		4		18	1929
	35		28	1902		5		19	1930
	36		29	1903		6		20	1931
	37		30	1904		7		21	1932
	38		31	1905		8		22	1933
	39		32	1906		9		23	1934
	40		33	1907		10		24	1935
	41		34	1908					
	42	宣統	1	1909					
	43		2	1910					
	44		3	1911					

第一節　沿革……一一
第二節　現狀……一三
第三節　燃料……一六
第四節　發電……一七
第五節　電氣の消費……一八
第二章　各說……二三
第一節　上海に於ける電氣事業……二三
第二節　上海　上海電力公司……二六
第三節　上海　法商電車電燈公司……三三
第四節　上海　閘北水電公司……三七
第五節　上海　華商電氣公司……四二
第六節　上海　浦東電氣公司……四六
第七節　上海　翔華電氣公司……五〇
第八節　上海　眞茹電氣公司……五三
第九節　上海　永安第一第二紗廠……五四
第一〇節　上海　恒太紗廠……五五

第一一節　上海　大通紗廠……五六
第一二節　上海　振華紗廠……五七
第一三節　上海　上海水泥公司……五八
第一四節　上海　英美煙公司……六〇
第一五節　上海　中華煤球股份有限公司……六一
第一六節　南京　首都電廠　附下關分廠……六二
第一七節　南京　和記蛋廠……六九
第一八節　武進　武錫　戚墅堰電廠……七〇
第一九節　武進　武進電氣廠……七六
第二〇節　武進　民豐紗廠……七八
第二一節　蘇州　蘇州電氣廠……七九
第二二節　浦口　津浦鐵路電燈廠……八五
第二三節　鎭江　大照電燈公司……八六
第二四節　江都　振揚電燈公司……八八
第二五節　南通　大生第一紡織公司……八九
第二六節　南通　大生第六紗廠……九一

第二七節　南通　廣生榨油公司……九一
第二八節　無錫　振新紗廠……九二
第二九節　無錫　慶豐紗廠……九三
第三〇節　無錫　申新紗廠……九五
第三一節　無錫　中國水泥公向……九六
第三二節　句容　中國水泥公司……九七
第三三節　銅山　華東煤礦公司……九九
江蘇省電氣事業一覽表……一〇〇
江蘇省自家用發電所一覽表……一〇七
第三編　浙江省電氣事業……一一二
浙江省內電氣事業圖
梗概
第一章　總說……一一三
第一節　沿革……一一三
第二節　現狀……一一五

第三節　燃料……一一九
第四節　發電……一二〇
第五節　需用狀況並料金……一二一
第二章　各說……一二三
第一節　杭州　杭州電氣公司……一二三
第二節　杭州　華豐紙廠……一三〇
第三節　嘉興　民豐紙廠……一三〇
第四節　嘉興　嘉禾染織廠……一三一
第五節　吳興　吳興電氣公司……一三一
第六節　長興　長興煤礦局……一三二
第七節　寧波　永耀電力公司……一三三
第八節　紹興　大明電燈公司……一三五
第九節　永嘉　普華興記電氣公司……一三七
浙江省電氣事業一覽表……一三八
浙江省自家用發電所一覽表……一四六

中華民國電氣事業分布圖

民國二十一年現在

例凡

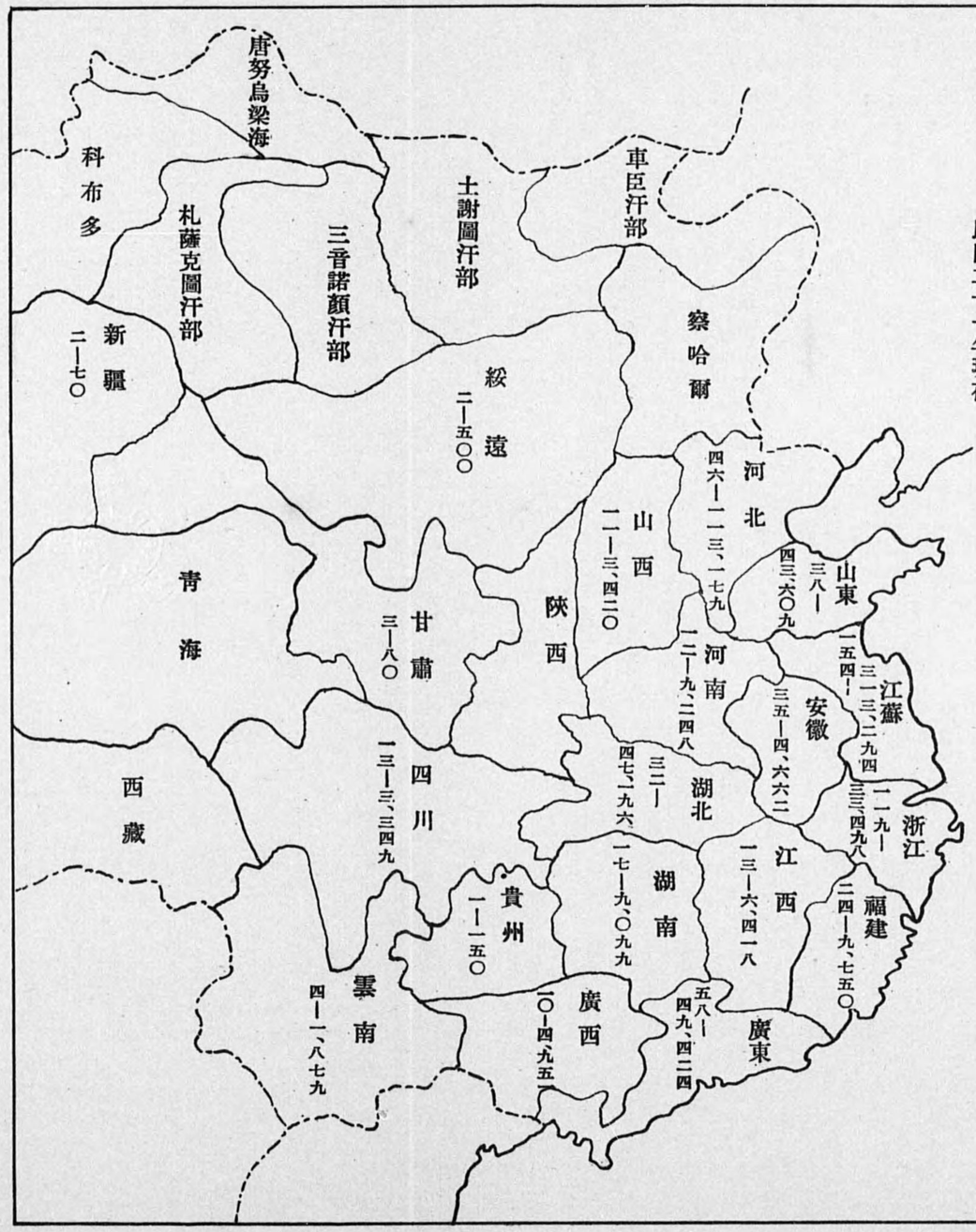
上ノ數字ハ事業者數

下ノ數字ハ發電容量KW自家用ヲ含ム

統一編纂

中華民國電氣事業分布圖

民國二十一年現在



例凡

上ノ數字ハ事業者數

下ノ數字ハ發電容量KW自家用ヲ含ム

中華民國電氣事業 上卷

第一編 總論

本編は全國電氣事業指導委員會委員長渾霽氏の民國二十一年現在調査報告を基礎として記述す。

概梗

本編は中華民國に於ける電氣事業概況につき概説せるものなり。

供給事業者	四六二箇所	四七三、七六五KW
自家用發電	一三二箇所	一八〇、四一一KW
計	五九四箇所	六五四、一七六KW

第一章　電氣事業者數

中華民國に於ける電氣事業は清の光緒八年(一、八八二年)明治十五年)十月上海に於て弧光燈を街路燈に使用せるに始まる。

白熱電燈は光緒十六年(一、八九〇年)明治二十三年)四月上海に於て街路燈に使用せられたのが始祖である。

註　日本に於て弧光燈を工部大學に試點火せるは明治十五年十一月一日。

日本に於て白熱燈を始めて點火せるは明治二十一年である。

斯くて今日五十年を經過せるにその進歩發展の遲々たる驚くべきものである、その原因としては政治の不良、國民文化の低級等なりと稱されて居る。

事業者數增加年表

省別	民國十三年	民國十六年	民國二十一年
江蘇	六一	五八	二二〇
浙江	三四	二七	一一五
河北	二五	二一	一六
廣東	一六	一五	五六

中華民國電氣事業の發展は上表に明かなる如く極最近の事に屬し、事業者總數五九四にして總發電容量六五四、一七六KWである。此內供給事業者は四六二にして全事業者の七八%、其の容量四七三、七六五KWにして總容量の六九%である自家用發電事業は一三二にして全事業者の二二%、其の容量一八〇、四一一KWにして總容量の三二%である。

之等電氣事業者の分布を見るに江蘇省の一五四を最多とし、次が浙江、廣東、河北、山東等にして事業者なき所は陝西、寧夏、青海、西康の四省である。之等事業を總括すれば次表の如し。

省別	民國十三年	民國十六年	民國二十一年
山東	一三	一三	一九
湖北	一二	一二	一七
福建	一二	一一	一三
其他	三四	四三	九七
計	二〇六	二〇〇	四六二

註　自家用及滿洲を除く

省別事業者數及發電容量

民國21年調查

省別	事業者數			發電容量 (KW)		
	供給事業	自家用	合計	供給事業	自家用	合計
江蘇	120	34	154	265 634	47 660	313 294
浙江	115	4	119	32 791	707	33 498
安徽	32	3	35	4 275	387	4 662
江西	10	3	13	1 908	4 510	6 418
湖北	17	15	32	23 649	23 547	47 196
湖南	14	3	17	4 682	4 417	9 099
四川	10	3	13	1 329	2 020	3 349
西康	0	0	0	0	0	0
福建	22	2	24	9 325	425	9 750
廣東	56	2	58	47 305	2 119	49 424
廣西	9	1	10	1 751	3 200	4 951
貴州	1	0	1	150	0	150
雲南	4	0	4	1 879	0	1 879
河北	16	30	46	56 752	56 427	113 179
河南	3	9	12	674	8 574	9 248
山東	19	19	38	19 536	24 073	43 609
山西	7	4	11	1 075	2 345	3 420
陝西	0	0	0	0	0	0
甘肅	3	0	3	80	0	80
綏遠	2	0	2	500	0	500
寧夏	0	0	0	0	0	0
青海	0	0	0	0	0	0
新疆	2	0	2	70	0	70
總計	462	132	594	473 765	180 411	654 176

註　原文には滿洲も含み居るも除外せり

第二章　資本關係

電氣事業供給投資總額は二億一千八百七十二萬六千七百四十元にして之が資本系統及省別は別表の如し。

系統別資本金表

區分	事業者數	發電容量	資本金		一事業者平均	
	數	%	KW	%	金額(元)	%　KW	資本金　建設費
民營	四三二	九三·三	一八七三二	六三·九	一五五〇一〇	三五八　四四一
公營	七一	三·九	五一一四八	一〇·八	一五五五八〇〇	七一·〇　一一·六
外資	三	二·八	三五二六五	四九·六	一五七〇九一〇〇〇	四六·六　六八·八
計	四五二	一〇〇·〇	四七三五五	一〇〇·〇	三八五三六四〇〇	一〇五　四三·三

之等の內最大の電氣廠は上海公共租界の上海電力公司にして投資額一億一千六百萬元(八千百萬兩)なり。之に次ぐは北平華商電燈公司の資本金一千百萬元、此の外上海閘北水電公司九百六十八萬元、同華商電氣公司四百八十六萬元、北平電車公司六百萬元、蘇州電氣廠二百八十七萬元、杭州電氣廠五百萬元、漢口既濟水電公司六百五十萬元、福建省福州電氣公司三百二十七萬元、廣東廣州市電力公司三百三萬元、青島膠澳電氣公司二百萬元等共に大なる部に屬し、資本金百萬圓內外のものは尙數箇所あり。若し夫れ百萬元以下の電氣廠に至りては枚擧に遑なく、その最少なるものに至りては一萬元前後のものも少しとせず。

供給事業者省別公私別資本金表

省別	事業者數				投資額(元)				發電容量(KW)			
	民營	公營	外資	計	民營	公營	外資	計	民營	公營	外資	計
蘇	一一五	三	二	一二〇	六〇、八五〇、九八〇	一二、四〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇	八四、二五〇、九八〇	二一、九〇八	一、二〇〇	一九、四二〇	三二、五二八
浙江	一一〇	五	一	一一六	六四、一〇〇、〇〇〇	五、八〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	七一、九〇〇、〇〇〇	二一、五一一	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二四、五一一
安徽	三一	一		三二	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇		四、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇		四、〇〇〇
江西	一〇	一		一一	一、八五〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇		二、八五〇、〇〇〇	一、九〇八	一、〇〇〇		二、九〇八
湖南	一四			一四	一、二五〇、〇〇〇			一、二五〇、〇〇〇	一、二三九			一、二三九
湖北	一四	一	一	一六	一、二五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	二、四五〇、〇〇〇	一、二三九	一〇〇	一、二〇〇	二、四三九
四川	一九	一		二〇	五、六八〇、二〇〇	一〇〇、〇〇〇		五、七八〇、二〇〇	五、六八〇	一〇〇		五、七八〇
山東	八一	一	二六	一〇八	三一、九二八、八〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	三五、八二八、八〇〇	二三、六四五	一、九〇〇	二、〇〇〇	二七、五四五
河北	二三	三	二六	五二	一七、九二九、八〇〇	二、八〇〇、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	二二、六二九、八〇〇	一九、七二七	二、八〇〇	一、九〇〇	二四、四二七
河南	七	一	一	九	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
山西	一二	一	一	一四	一、二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
甘肅	二			二	一、〇〇〇、〇〇〇			一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇			一、〇〇〇
綏遠	二			二	四〇〇、〇〇〇			四〇〇、〇〇〇	四〇〇			四〇〇
新疆	二			二	一、〇〇〇、〇〇〇			一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇			一、〇〇〇
福建	一三			一三	五、五二一、九〇〇			五、五二一、九〇〇	五、五二一			五、五二一
廣東	五五	一	一	五七	六、七五二、六〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	八、七五二、六〇〇	六、七五二	一、〇〇〇	一、〇〇〇	八、七五二
廣西	七	二		九	三、三五〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇		四、三五〇、〇〇〇	三、三五〇	一、〇〇〇		四、三五〇
貴州	一			一	一、〇〇〇、〇〇〇			一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇			一、〇〇〇
雲南	四			四	一、二〇〇、〇〇〇			一、二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇			一、二〇〇
計	四二二	一七	一三	四五二	二六、六三五、二五〇	一五、五二四、〇〇〇	二三、二〇四、〇四〇	一五五、三六三、二九〇	一八、三五五	五一、一四八	二五、二六五	一四七、三七九

前表民營事業中にも外資の參加せるものあり、青島膠澳電氣公司はその適例なり。

次に之等の資產に對する割合を見るに次の如し。

發電資產　五五%

配電資產　三〇%

共他資產　一五%

自家用電氣事業に就ては分明せるもの僅か三七事業三五、三〇八KWにして其の投資九百三十四萬二百七十三元卽ち一KW平均建設費二百六十五元なり。

第三章　電氣方式　原動機　水力

交流　全國殆ど交流にして周波數は五〇サイクル最も多く、二五サイクルは自家用に二者あるのみなり。

直流　全容量の一六%、九、七一四KW、一事業者平均八三KWにして一一七事業なり。

電壓　低壓にては二二〇V、三八〇V最も多く次に一一〇V、二二〇Vが用ひらる。

高壓としては二、三〇〇V最も多く次に三、三〇〇V、五、二五〇V、六、〇〇〇V等にして發電電壓の最高は首都及杭州電氣の一三、二〇〇Vなり。

原動機　大部分火力發電にして汽機九五.〇%、內燃機四.五%、水力〇.五%なり。

水力　中華民國に於ける水力は約二〇、〇〇〇、〇〇〇馬力と稱され、世界第四位と迄言はるゝも僻地に存在すると工業の發達見るべきものなき爲未だ殆ど開發されず、左記七箇所二、三〇四KWを算するのみなり。

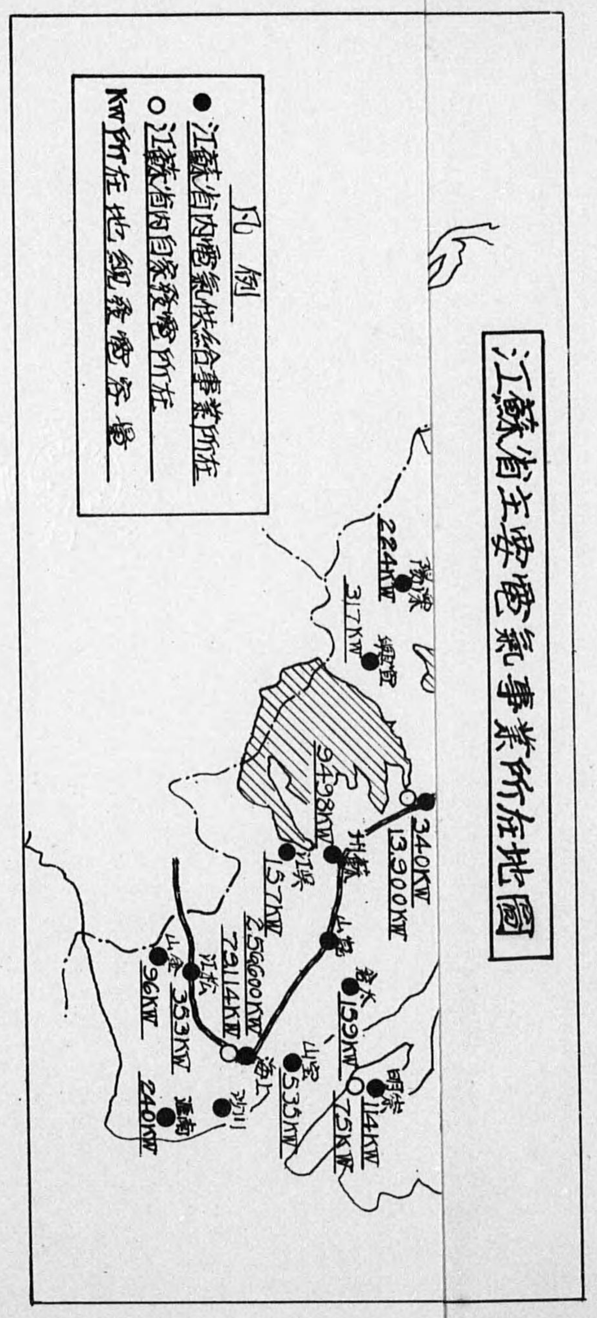
雲南省昆明耀龍電燈公司	一、七五二KW
四川省濟和水電公司	二二〇KW
四川省成都水力發電廠	二〇〇KW
福建省南平電氣公司	八〇KW
福建省永安昭明水電公司	二五KW
山東省濟南第一水電廠	一五KW
山西省大原蘭村水力發電廠	一二KW

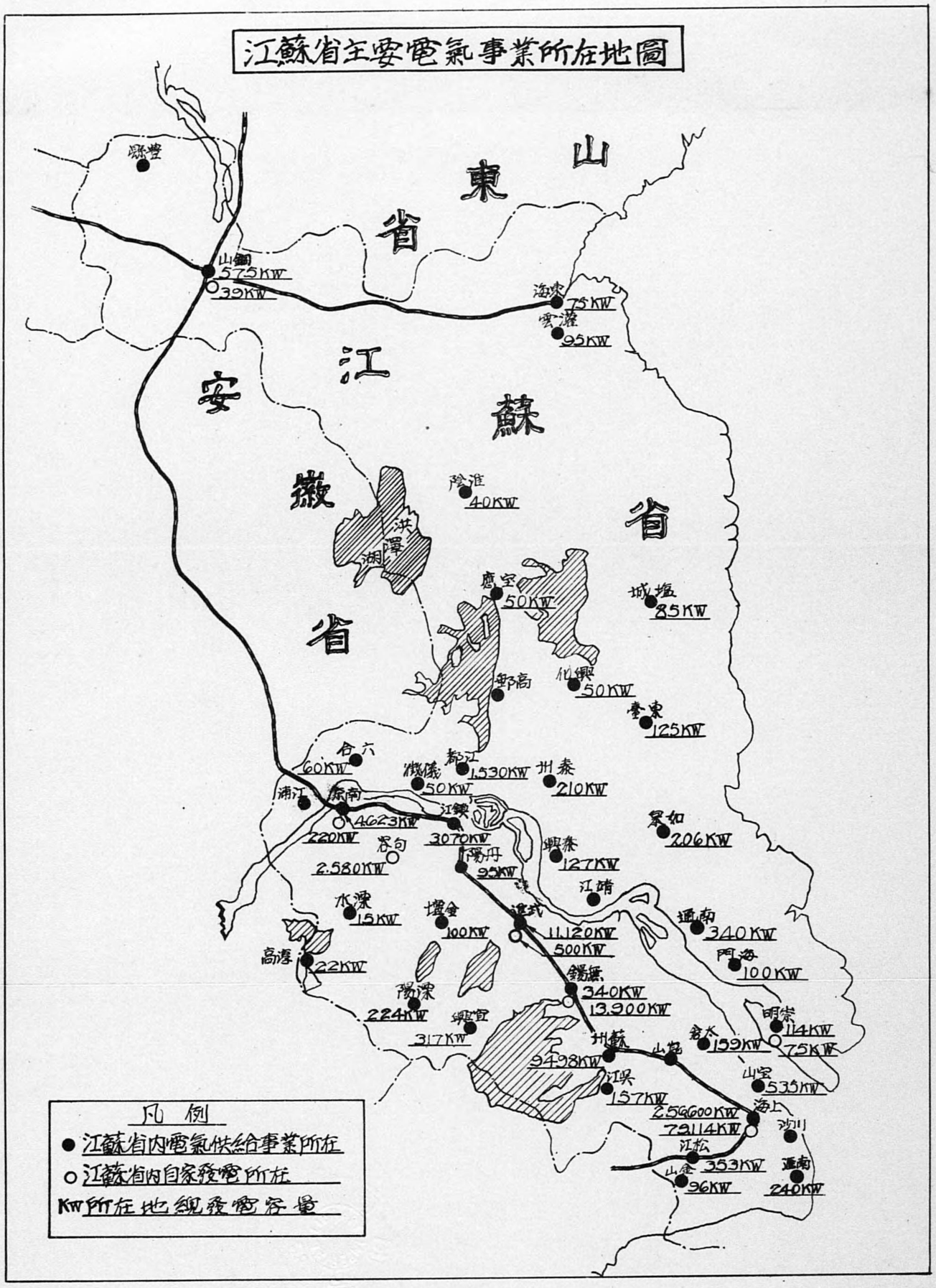
第四章　指導機關

要するに中華民國の電氣事業は、其の總發電容量四七三、七二五KW餘にして其の事業者數は四六二、從つて一事業者平均發電容量一、〇二五KWである。之に依り案ずるに其の電氣事業は未だ極めて幼稚なるものにして、それ丈け未だ發展の餘力充分あるものと考へらる。然して最近に於ける國民政府の方針は一つの計畫經濟を樹立し、其の發展に努力しつゝあり、其の組織を見る

に、最高指導者として政府首腦者を戴き、其下に建設委員會がある。之が更に實業部、交通部に分れ、實業部が産業關係、交通部が日本の遞信、鐵道兩省の如き仕事をなして居る。從つて電氣事業は交通部の統制指導を受くるのである。

此の外民間に電氣聯合會ありて斯業の發達統制に努力しつゝある。然してその方針は電氣聯合會が經濟委員會及農業電化會に分れ、先づ農業電化を發展せしめて後電燈電力の普及を計ると言ふ事で現在農業電化に力を注ぎつゝある。農業電化には電力設備資金を低利に貸付けると言ふ方針で斯くの如く金融關係迄這入り込んで居ると云ふ事は注目に値する事である。




江蘇省主要電氣事業所在地圖
山東省
江蘇省
安徽省
洪澤湖
豐縣
山銅 575KW 39KW
海東 75KW
雲灌 95KW
陰淮 40KW
應宝 50KW
城塩 85KW
高郵
化興 50KW
臺東 125KW
六合 60KW
都江 1,530KW
泰州 210KW
儀徵 50KW
浦江
南京 4623KW 220KW
江鎮 3070KW
句容 2,580KW
陽丹 95KW
泰興 127KW
如皋 206KW
靖江
水溧 15KW
金壇 100KW
武進 11,120KW 500KW
通南 340KW
高淳 22KW
門海 100KW
無錫 340KW 13,900KW
溧陽 224KW
宜興 317KW
明宗 114KW 75KW
蘇州 9498KW
山宮 159KW
吳江 157KW
山宝 535KW
上海 256600KW 79114KW
川沙
松江 353KW
金山 96KW
南通 240KW
凡例
● 江蘇省內電氣供給事業所在
○ 江蘇省內自家發電所在
Kw 所在地總發電容量

江蘇省電氣事業

第二編　江蘇省電氣事業

梗概

本編は江蘇省に於ける電氣事業につき資料を蒐集記述せるものなり。

供給事業者	一三五箇所	三一五、四二八KW
自家用發電	六一箇所	一〇三、三二四KW
計	一九六箇所	四一八、七五二KW

第一章　概說

第一節　沿革

江蘇省は中國各省電氣事業の首位を占め、上海は又江蘇省の首位なり。清光緒十年獨逸人イバート氏が上海共同租界にイバート電燈公司を創設し租界内の各商店に電燈供給を爲す、之即ち上海電氣事業の發端にして江蘇省電氣事業の濫觴を爲せり。其後租界工部局は電燈は公共事業の一に屬するを以て光緒十八年該事業を工部局に引取り之を經營し同時に機械容量を擴張し從來の電燈を供給する外更に電力電熱も供給せり。民國十八年に至り該局は八千一百萬兩を以て該事業を米國の外國電力公司（American, foreign, Power Co）に賣却し、上海電力公司（Shanghai. Power Co.）と改名せり。

中國人自辦の電氣事業に就ては上海華商電氣公司を推すべし、該公司は内地電燈公司と華商電車公司と合併改組を經て成立したるものなり。光緒三十年時の上海馬路工程局總辦の發起に依り局内に電燈部を設置し其後二年餘を經過して總工程局に引取り辦理することゝせり。經營不良の爲會議の結果商辦公司に改組することに議決せり。即時十萬元の資金を集め翌年八月内地電燈公司を成立し電燈供給を開始せり。民國元年に至り公司當局者は餘電を利用して電車事業を經營する許可を得、別に電車公司を組織せり數年後電燈電車共に著々發達を見、民國八年に

至り兩公司の株主同意の上合併改組して華商電氣股份有限公司と改稱せり。

其後江蘇省各地に電氣事業漸く萌芽開始の境に進み光緒三十一年の秋鎭江城外荷花塘に於て大照電燈公司の設立を見、最初資本僅か十萬兩、發電機は直流式橫型汽機を使用し後三十四年に資金十萬兩を增資し新式の交流機器を購入、今日資本已に七十萬元に達せり。光緒三十四年上海に於ては閘北水電公司の計畫を有し該公司は最初官金を借用し閘北叉袋角に發電所を置き、後民國元年日商大倉洋行より借款三十萬兩を受け翌年叉十萬兩の借款を大倉洋行よりなし事業の擴大を圖り、民國三年該事業を省有事業に歸したり、民國十三年に至り該地紳商の申請に依り更に商辦と爲し資本二百萬元とし翌年十一月江灣電燈廠の機器を買入れ現在資本四百萬元に達せり。

官營電氣事業の首位は南京首都電燈廠にして、始め清朝宣統元年江南財政局が南京電燈事業開設を唱へ官金より銀二十萬兩を支出して開辦經費に充當し名稱を金陵電燈官廠と定め宣統三年多季工事を完了し、卽時營業を開始せり。民國成立後江蘇實業廳に歸屬し江蘇省立南京電燈廠と改稱せり、民國六年下關分廠を設立し十七年に至り建設委員會に引繼ぎ國營事業と爲し同年四月該委員會の經營に移し尙同年七月同委員會は無錫、常州間にある戚墅堰電廠を繼承せり、該電廠は原名震華電機製造公司と稱し民國十二年に創設したるものなり。

民國以降江蘇省の商工業は日を追て發達を遂げ各縣城市の人口亦著しき增加をなし、其れに

電燈電力の需用益々增加し就中歐戰前後に於て最も其の發達異常なる速度を演じたり、民國二年に松江の松江電氣公司及青浦の珠浦電燈公司、江都の振揚電燈公司次第に成立し民國三年には武進に武進電氣廠及溥明電燈公司設立し、民國四年には漂陽の振亨電燈公司、常熟の常熟電燈公司夫々營業を開始せり。要するに民國五年より十年に至る間各縣新成立の電氣事業は實に四十餘箇所に達したり、現今に至り江蘇省六十一縣中句容、揚中、泗陽、宿遷、睢寧、蕭縣、碭山、沛縣、邳縣、沭陽、贛榆及漣水等の十二縣の偏僻なる土地を除外して其他の四十九縣には電氣供給事業の無き處は皆無なり。

第二節　現　狀

江蘇省に於ける電氣事業は合計一三三箇所、廠數の最も多きは吳縣にして發電容量は上海最高なり、次に江蘇省各縣に分布する電氣事業數、發電機數及總容量を表にすれば左の如し。（南京市は江寧縣に包含し上海市は上海縣に包容す。）

江蘇省一三三電氣事業中不明のもの一〇を除き其他一二三事業の資本總額は二千四百十五萬二千九百五十元、平均一事業十九萬六千三百六十五元なり。資本最大の事業は閘北水電公司及上海華商電氣公司にして九百六十萬元及四百八十六萬元なり。最少なるものは滬雲楊家集電燈公司の一千元なり。

江蘇省電氣事業分布表　民國二十一年十二月調查

縣別	業數事者	電數發機	電量發容 K.W.	縣別	業數事者	電數發機	電量發容 K.W.
南滙	4	4	140	銅山	1	2	575
松江	6	7	372.5	沛	0	0	0
上海	6	13	28,621.5	漂水	1	1	15
金山	5	5	95.6	句容	0	0	0
吳	12	14	8,298	六合	1	1	40
嘉定	4	5	330	鎭江	1	5	3,070
崇明	2	2	114	丹陽	2	3	95
常熟	4	10	348	泰興	3	3	127
江陰	2	4	170	高郵	2	2	70
宜興	6	6	317	淮安	1	1	62.5
奉賢	4	4	75	泗陽	0	0	0
川沙	2	2	36	睢寧	0	0	0
青浦	2	3	110	嘉邳	0	0	0
吳江	7	7	189	邳	0	0	0
崑山	1	3	75	沭陽	0	0	0
寶山	3	3	535	灌雲	1	2	95
太倉	4	6	159	水城	0	0	0
無錫	6	7	340	臺阜	1	1	85
武進	3	5	4,720	通東	3	4	125
漂陽	2	2	224	海檢	4	5	206
高淳	2	2	32	南啓	2	5	340
江寧	3	14	3,023	東轅	1	1	5
江浦	1	3	1,550	阜興	1	2	75
儀徵	1	1	50	化泰	0	0	0
金壇	1	1	100	江門	1	1	18
揚中	0	0	0	靖海	1	1	50
江都	4	5	1,570	總計	4	4	210
寶應	1	1	50		1	1	32
淮陰	1	1	40		1	1	100
宿還	0	0	0		133	187	57,400.1

註　外國人事業を含まず。

之等事業者の資本金別事業數を示せば次表の如し。

江蘇省一三三電氣事業の發電機數は一八七基なり、其內官營に屬するもの二一基を除く其他の一六六基は全部民營事業卽ち商辦電氣廠なり、右發電機の一基は國內電氣機器製造所の製品にして其他は全部英米及獨三箇國より購入せるものなり。

各電廠の電流は直流多數を占め八五箇所あり、交流は少數にして四四箇所なり、都會及大地方は電氣需用比較的大なる爲直流電氣にては供給困難なる爲多く交流を用ふ、併して僻なる土地は僅か電燈供給のみなれば直流にて充分其任を全うする爲直流を使用す。

資本金別事業者數

資本金(元)	事業者數
一,〇〇〇——五,〇〇〇	三
五,〇〇一——一〇,〇〇〇	三
一〇,〇〇一——五〇,〇〇〇	五
五〇,〇〇一——一〇〇,〇〇〇	四
一〇〇,〇〇一——五〇〇,〇〇〇	二
五〇〇,〇〇一——一,〇〇〇,〇〇〇	三
一,〇〇〇,〇〇〇以上	五

江蘇省に於ける發電所容量は總計五七,四〇〇KW(中國側のみ)なり、此の數字は全國首位なれども外商上海電力公司の半數にも尙及ばざるなり、該公司の發電容量は一八三,五〇〇KWに達せり。

次に經營系統に就て論ずれば官辦電廠の容量は八,三二五KW卽ち一四.三%であり、商辦電廠の容量は四九,〇七五KW卽ち八五.七%なり。

發電機の原動力は蒸汽、重油及瓦斯機關の三種なり、江蘇省に於ける原動機は重油機關を以て

原動力となすもの最も多く一一三基即ち六二·五%あり、蒸汽機關六一基即ち三三·七%あり、瓦斯機關は最も少く七基即ち三·九%なり。

江蘇省一三三電氣事業中官營は五、商辦は一二八、官營中建設委員會で辦理するもの三即ち首都電廠、下關分廠及戚墅堰電廠なり、江蘇省建設廳辦理のものは一即ち銅山耀華電氣公司なり、津浦鐵路管理局辦理の者は一、浦口電燈公司なり。

第三節　燃　料

江蘇省電氣事業を考究するに其原動力は蒸汽、瓦斯及重油の三種なり、蒸汽及瓦斯は總て石炭又はコークスを燃料に使用す、故に實際使用するものは重油、石炭及コークスの三種なり之等につき述れば左の如し。

一、重油　重油の來源は米商美孚公司及德士古公司又は英商亞細亞公司の三公司より購入す、江蘇省全電氣廠の使用高は年三、四〇八噸なり、價格は高低不定なるも每噸最高約九十元、最低七十五元六角、平均八十二元八角の計算によれば每年二十八萬二千百八十二元四角なり。

二、石炭　電氣に使用する石炭は有煙、無煙共に用ひ其の來源は安南、山西、淮南、山東、秦皇島等なり、每年所要噸數は約六六、四八二噸、無煙炭は噸約三十元、有煙炭は噸約十八元、平均噸約十八元の割を以て計算すれば全年約百四十五萬二千六百四元なり。

三、コークス　コークスの來源は開灤及博山の二箇所なり每年約四八、五二二噸使用し每噸の價格は平均約十六元なり年額約七十七萬六千三百五十二元なり。

（編者註　間違ひらしきも原文のまゝ記載す。）

第四節　發　電

發電動力は水力及火力の二種なり江蘇省の電氣は皆火力電氣なり、火力の種類は多々あれども大別して左の二種と爲す、一は內燃機械、二は外燃機械なり。內燃機械は瓦斯機及各種油機なり、外燃機械は各種汽機及各種タービン機なり。江蘇省の各電氣廠は設備の小規模の者は各種油機及舊式汽機を採用す、其の容量及設備比較的大なる者は大部分蒸汽タービン機を採用せり。

蒸汽タービン機は衝動式、反動式及複動式等の種類あるも要する處悉く蒸汽熱力を以て機械動力に化し使用する者なり、蒸汽熱力は汽罐內に於て燃料と空氣の化合燃燒に依り水に熱を傳導して得るものなり、蒸汽は發電機のタービンに導入したる後タービンは蒸汽の勢力に依り運轉を行ふものなり、其の速度每分約三千數百廻轉なり共の廻轉及摩擦の結果電氣發生す、電氣發生後更に配電盤に依て電壓を調整す、發電電壓は高壓故變壓器を通じ低下したる後に始めて電線或は電纜に依り各地に配電し電燈、電力及電熱の用に供給するものなり。

發電機から發生する電氣に直流及交流の二種あり、直流機は勵磁方法の相異に依て自勵及他

勵の二種に分ち更に線輪の捲方の相違に依り直捲、複捲等數種に分つ、其の電壓は高くすること能はざる故遠距離送電をなすこと能はず故に直流機の用途は交流機程廣く用ひ得ず、交流機は廻轉磁界式及廻轉線輪式の兩種に分ち均く直流勵磁を用ふ、單相、三相又は多相にして何れも其の用途に依つて定む、電壓の高低は其の配電範圍の廣狹に依つて定む。

江蘇省に於ける一三三電氣廠の發電總量は年一二〇、九二二、六六七KWH(民國二十年)なり。

第五節　電氣の消費

江蘇省一年の發電量は前記の如く一二〇、九二二、六六七KWHにして公司用五%即ち六、〇四六、一三三KWH、送電損失一五%即ち一八、一三八、四〇〇KWH竝盜電損失二〇%即ち二四、一八四、五三三KWHを除外する時は實際公司の販賣電量は僅に六〇%七二、五五三、六〇一KWHなり。毎KWH二角を以て計算する時は一年の營業收入一千四百五十一萬七百二十元二角なり。

次に料金を通觀するに規模大なるものは從量制に依り一KWH何角と規定せるも、小事業者は計器設備なき爲大部分電燈用のみなるを以て普通十六燭光を標準とし毎一灯毎日又は毎月幾程と規定せり。江蘇省電燈料金の最低は一KWH一角六分二厘、最高は三角なり、其間の差一角三分八厘の巨額に達せり。之資本金の大小に依るものにして蓋大都市電氣廠は全部雄大なる資金を擁し機器設備共に精良にして營業區域亦集中せる爲發電量は多く、線路損失は少にして利

江蘇省主要電氣事業者料金表(1K.W.Hに付單位分)

地點	事業者	電燈	電力	電熱
上海	上海電力公司	16.4	4.1～6.1	4.1～5.5
同	法商電燈公司	19.2		
同	商華電氣公司	18	4.2～6.2	4.2
同	閘北水電公司	18	4.6～7.0	5.5
同	浦東電氣公司	21	6.0～9.5	7
同	華翔電氣公司	18	5.0～9.5	7
同	眞茹電氣公司	22		
鎭江	大明電燈公司	16cp 120		
武進	武進電氣廠	18		
同	戚墅堰電廠	18	3.0～5.5	
丹陽	肇明電燈廠	16cp 140		
吳縣	蘇州電氣廠	20		
崑山	南翔電燈公司	28		
同	黃渡電燈公司	16cp 120		
嘉定	華興永電燈廠	16cp 120		
同	新中華電氣公司	18.6		
大倉	耀婁電氣公司	24		
同	耀明電燈公司	24		
同	沙浚電氣公司	25		
外倉	友華電燈廠	24		
江都	振揚電氣公司	24		
銅山	耀華電氣公司	25		
南京	首都電廠	22	4～7	7
興化	興々公司	1燈1日 4	7	
海門	海明電氣公司	30		
東臺	東耀電氣公司	30		
泰興	東暘電燈公司	25		
南通	通明電氣公司	30		
靖江	驥星電燭廠	24		
高淳	新華電氣公司	1燈1日 6		
同	三陽電燈公司	1燈1日 6		
泰縣	振泰電氣公司	30		

益大なること當然なり。其れ故料金も低下することを得。

江蘇省主要電氣廠料金を表示すれば別表の如し。

電氣の用途は電燈、電力、電熱の三種の外に出でず、江蘇省に於ける一三三電氣廠中上述三種電氣の供給を爲し居る者は僅か九箇所のみ、外に電燈及電力の供給する者は二二箇所あり、其餘の者は全部電燈供給のみなり。內地各縣電氣廠は規模皆小なるが故往々電燈の供給する以外同時に棉花製造又は精米所を兼營する者あり、常熟の昌明、吳江の大埔、松江の利生、金山の信孚、奉賢の程恒昌、吳縣の明星、崑山の泰記、江陰の華明、海門の海明等の如き夫々兼業を有する電氣廠なり。

需用家公司營業區域內に於て電燈、電力又は電熱等の裝置を欲する場合は先づ公司に對し交渉の結果双方の間に需電契約を作成し其れに署名捺印の上保證金を公司に差出し其の受領書を受く、公司は其の申込書及需電契約竝に保證金を受け其の翌日より五日間以內に公司員を派出し其の裝燈檢查を爲し合格と認めたる時は卽時引込取付工事を爲し送電するものなり。需用家の支拂べき電氣料金が若し其の納めたる保證金額の半額を超過したる時且つ其の料金を期日通り納付せざる者は公司は卽時書面を以て該需用家に保證金の增加納付を通知す其の增加額は一箇月分の使用電氣料金の最大額の倍數を標準と爲し、該需用家は右通知に接したるも期限通り增加額を納入せざる時は公司は繼續用電の意思無きものと看做し暫時其の送電を停止す。需用家は用電停止を欲する時は其の旨七日以前に公司に通知し公司は右通知に依り期日通

り取外工事を爲し所要料金を清算して納付するを以て其の結末を爲す。もし用電停止の通知を先に爲さざる場合は無論何時迄たつても料金は停止通知のある時迄繼續し該需用家は其の納付を爲すべし。

電氣料金は毎月清算して納付すべし料金納付通知書に接し二十日間迄に尙納付せざるに於ては公司は其の翌日より再度五日間を容許し其日に達し尙納入せざる者に對しては卽時送電停止の外料金は保證金額より差引き剩餘のある時は返還し足らざる時は追納を爲すべし、一旦用電を停止し料金を清算納入せし者が更に再裝置を欲する時は再設費五元納付するものとす、料金の計算は都會地方の如き上海、南京、無錫、吳縣、南通等の地は全部積算電力計に依て計算し毎月公司より人員を派して檢針を爲し其れに依て料金納付額の根據と爲す、次に上海方面に於ける各種料金及計算標準を示さん。

イ、電燈、電扇用電氣は毎一KWH一角八分毎月使用電量一、〇〇〇KWHを超過し八、〇〇〇KWH迄の者は五分引

但此の割引は一戶が一箇所に於て使用する者に限る。

ロ、電熱用電氣は毎一KWH五分五厘、料金の計算はアンペアを標準とす。

ハ、電力用電氣は馬力を以て計算標準と爲し裝置する電動機毎月毎一馬力につき二五KWHを以て最低と爲し其數に達せざる時も其れに依て計算す、毎月毎馬力平均用電一五〇KW

H以内の時は毎一KWH七分毎月毎馬力平均用電三五〇KWHを超過する時は毎一KW
H四分五厘即ち使用電量多き程料金が低廉するものなり。

本章は民國二十二年二月發行中國實業誌江蘇省より抜萃飜譯せるものなり。

第二章　各　說

第一節　上海に於ける電氣事業

上海は戸數三七五、一三〇戸、人口一、八三六、六一一人（一九三三年一二月現在）を有する中華民國第一の都會にして商工業の繁榮なる事亦中國第一なり。

各國勢力の錯綜せる地にして電氣事業の如きも上表の如く供給業者七、自家用發電所四二を數へ、其の發電容量は實に三二八、七九四KWに達せり。

近時中國側電氣事業は建設委員會に於て漸次閘北、華商の兩公司に統一する方針にて既に實明電氣公司は閘北に併合し、浦東、翔華及眞茹の三公司は發電所を閉鎖し閘北より受電を開始せり。

上海電氣事業一覽

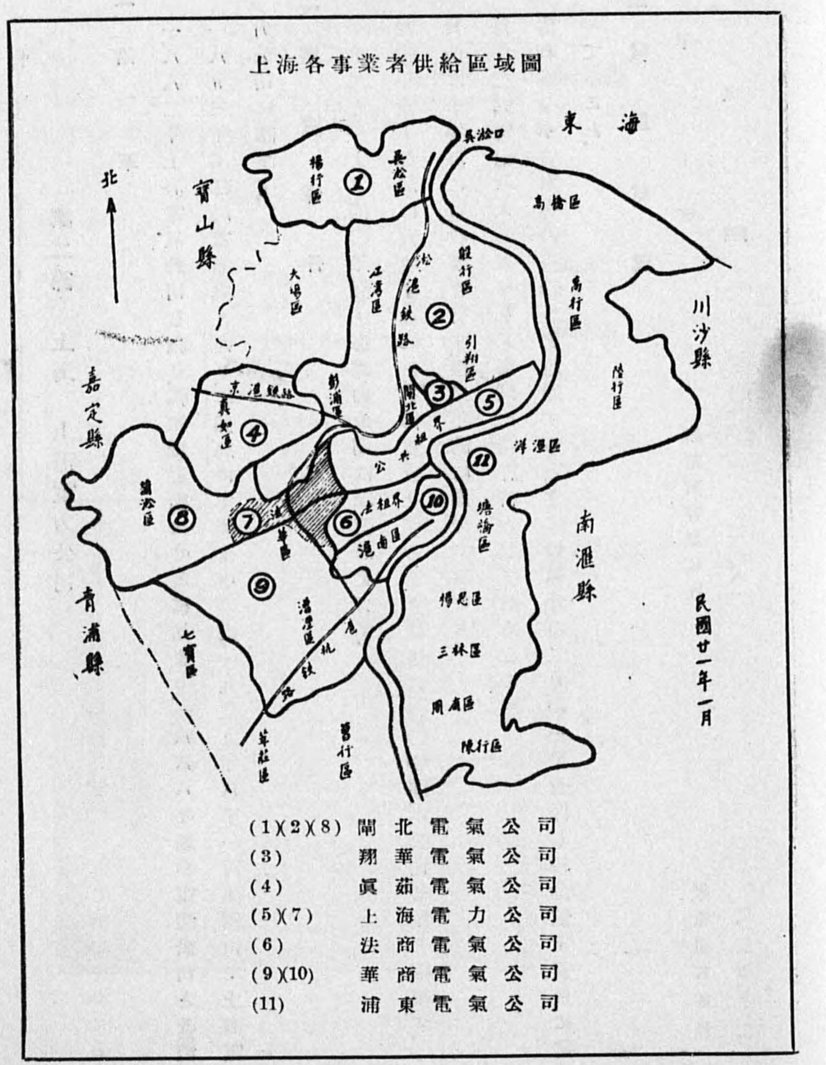
事業者	系統	資本金	發電容量KW
上海電力公司	英米	81,000,000兩	183,500
法商電氣公司	佛國	20,000,000法	29,680
閘北水電公司	中國	9,680,000元	20,500
華商電氣公司	同	5,000,000元	16,000
浦東電氣公司	同	623,000元	受電
翔華電氣公司	同	250,000元	同
眞茹電氣公司	同	27,700元	同
自家用發電所	日本	12箇所	45,829
同	英國	4箇所	7,350
同	中國	26箇所	25,935
計			328,794

年度	發電容量KW	指數
一九一四	二四、九四九	一〇〇
一九一九	四九、九九六	二〇〇
一九二四	一二一、〇〇〇	四八五
一九二九	一六一、〇〇〇	六四五
一九三四	—	—

中國側電氣事業は五年三倍の增加率を以て擴大しつゝありと、今上海電力公司の實績を擧ぐれば上の如く五年約二倍なり。

又各事業者の供給區域に就ては別圖の如し。

上海各事業者供給區域圖



民國廿一年一月

第二節　上海　上海電力公司

一、沿　革

一、八八二年上海電氣公司を創立、弧光燈を點火せるに始まり、一、八八八年新申電燈公司と改稱、一八九三年工部局電氣處となり、工部局にて經營中の處一、九二九年八千一百萬兩にて上海電力公司に讓渡す。

二、讓渡條件

一、九二九年より四〇年間上海電力公司は經營權を有す。

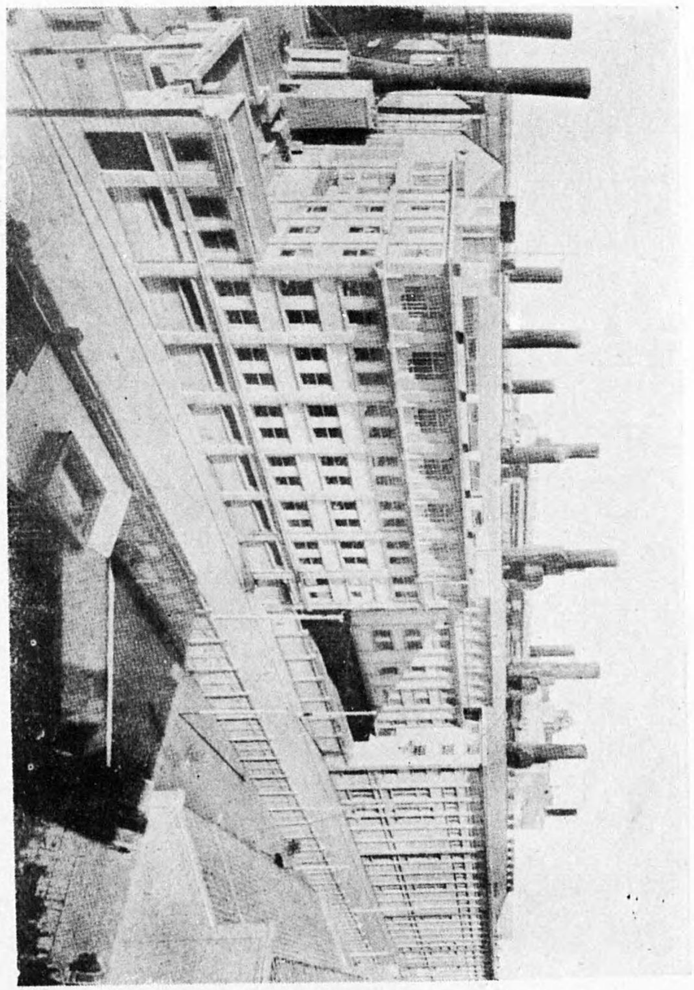
四〇年後工部局は買收することを得買收せざるときは更に一〇年間本公司營業を繼續す。共後は十年毎に買收權を有す、但二年前に豫告すること。

毎年二回電氣收入の五%を工部局に特許料として納めること。

尙利益金が資本金の一〇%を超過するときは超過分の二分の一を留保し料金値下資金に當てること。

三、發展狀況

年度	發電所容量KW	發電量KWH
一八〇四	二、〇五一	一、二一四、五六二



上海電力公司(事務所側より)

上海電力公司(江上より)

四、發電所設備

一九〇九	一九一四	一九一九	一九二四	一九二九	一九三三	六、三〇〇	五、九八八、八三六
						二五、〇〇〇	三七、〇九二、〇四四
						五〇、〇〇〇	一一二、四八四、五七六
						一二七、〇〇〇	三六一、三六一、二五〇
						一六一、〇〇〇	六二〇、九〇八、五四六
						一八三、五〇〇	八〇一、五八三、〇〇〇

發電所容量　三、一八三、五〇〇KW

汽罐

種類	B W								
製作者	B W								
汽壓	封度								
汽溫	F								
蒸發量	封度	三二、〇〇〇							
臺數		四							

三相交流

	B W		B W		B W				
	B W		B W		B W		三七五		
							七〇〇		
		三八、〇〇〇		五〇、〇〇〇		八〇、〇〇〇			
		四		八		五			

原動機

種類	タービン	タービン	タービン	タービン	タービン	タービン	タービン	タービン	タービン
製作者	AEG	EEC	GEC	GE	EEC	EEC	EEC	パーソン	BTH

第二編　江蘇省

容量 KW	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
廻轉數	—	—	1,200	1,200	1,200	—	—	—	1,200
臺數	二	二	一	一	一	二	二	二	一
發電機									
種類	三相交流	三相交流	三相交流	三相交流	三相交流	三相交流	三相交流	三相交流	三相交流
製作者	AEG	EEC	GE	EEC	EEC	GE パーソン	GE	EEC	BTH
電壓	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300
容量 KW	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	—	—	—	—
周波數	50	50	50	50	50	—	—	—	—
廻轉數	—	—	1,200	—	—	—	—	—	—
臺數	二	二	一	二	一	二	一	一	一
据付年	—	1,931	1,931	1,931	1,931	1,931	1,931	1,931	1,931

五、發電狀況

	發電量 KWH	尖頭負荷 KW
一九三〇年	六二六、九〇八、五四六	一一八、八六〇
一九三一年	七五三、五六八、〇〇〇	一二七、四五八
一九三二年	八〇一、五八三、〇〇〇	一三三、一三四
一九三三年		

Typical Daily Load Curve at Riverside Power House

Maximum Demand and Load Factor for the years 1910 to 1929, Riverside Power House

六、收支

收入	一九二八年	一九三一年	一九三三年
	二二、八四六、六〇四兩	一七、九三二、六八九兩	一六、四二九、五六一兩
支出	七、八三三、〇五九兩	一六、四二九、五六一兩	一八、八四二、七八五兩

利益　五、〇二三、五四五兩

七、需用家數

一九三〇年　一九三一年　一九三二年　一九三三年

需用家數　五七、四五七戶　七三、七五五戶　七三、六四二戶

八、販賣電力の分布（一九三〇年）

個人電燈		八・五六%	
街燈		〇・五八%	
熱及炊事		一・七九%	
動力及電車		八九・〇七%	
計		一〇〇・〇〇%	

九、料金

電燈（一九三二年一月一日改正）

住宅用	初 一〇〇KWH	一KWH	〇・一二〇兩
	次 二〇〇同	同	〇・一一〇兩
商家用	次 二、〇〇〇同	同	〇・一〇〇兩
	次 一〇、〇〇〇同	同	〇・〇六五兩
	次 一五、〇〇〇同	同	〇・〇五五兩
	超過の分	同	〇・〇四五兩

看板用　一KWH　〇・一二〇兩

但一KW以上のものにして毎年自五月至八月の四箇月間毎月一五〇KWHを超過し、爾餘の八箇月間は毎月一八〇KWHを超過するものは一KWH　〇・〇七五兩

ネオンサインは無效電力一KVAにつき〇・〇二五兩を追徴す。

電熱（一九三二年一月一日改正）

家庭用	三KW以上のもの	一KWH	〇・〇三〇兩
但最低料金		一箇月	四・〇〇〇兩
	三KW以下のもの	一KWH	〇・〇四〇兩
湯沸用		一KHW	〇・〇二〇兩

動力（改正せず）

契約容量一馬力一箇月電量	一KWH料金
一四九KWH以下	〇・〇四五兩
一五〇KWH以上二五〇KWH以下	〇・〇四一兩
二五〇KWH以上三五〇KWH以下	〇・〇三六兩
三五〇KWH以上	〇・〇三〇兩

昇降機用直流　〇・一二〇兩

大動力

特別契約とし、最高負荷表示器を設置し表示一KWにつき月三兩內外。

電力料一KWH〇・〇一五兩位にて契約す。

電力料は石炭價格の變動、發電所成績の良否、距離の遠近に依り變動す。

因に日本人紡績工場は平均一KWH〇・〇一七乃至〇・〇一九兩見當になり居れりと。」

電動機損料（一箇月に付）（一九三二年一月一日改正）

馬力	損料（兩）	馬力	損料（兩）
一	三	二〇	一七
二	四	三〇	二二
三	五	四〇	二五
五	六	六〇	三五
七・五	八	八〇	四〇
一〇	一一	一二〇	五〇
一五	一四	二〇〇	七〇

ストーブ損料　一箇年　二兩

炊事器具損料　一箇月　〇・五兩

湯沸器損料　一箇月　一・〇兩の二種

第三節　上海　法商電車電燈公司

一、沿革

上海佛蘭西租界に於ける電氣事業は當初佛蘭西租界工部局の直營なりしが、一、九〇六年に至り之を民間事業に移し資本金三百萬法の上海法商電車電燈公司創立せられ、電車水道事業を經營せり。その後資本金八百萬法に增資し更に一、九一九年に至り租界區域の擴大及人口の激增に伴ひ電力供給の大擴張を行ふ必要を生じ資本金二千萬法に增資せり。

發電所は初め汽力に依り三、五〇〇KW迄設備せるが一、九一九年大擴張の必要を生じたるに冷却水の補給方法なき爲デーゼル機關を採用することに決定し一、九二二年一、〇〇〇KW二臺、一、九二四年三、〇〇〇KW二臺の据付を終り、其後四、六〇〇KW發電機を二臺宛順次六臺据付け、更に一、九三三年八、〇〇〇KW一臺增設し全部一一臺、三七、六八〇KWデーゼル機關五〇、〇〇〇馬力を有するデーゼル發電所としては世界第一の大容量のものとなれり。

二、發電所設備

發電所容量　三七、六八〇KW

原動機　種類　デーゼル　デーゼル　デーゼル　デーゼル　デーゼル　デーゼル

法商電車電燈公司發電所

製作者	ズルザー	ズルザー	ズルザー	ズルザー	ズルザー
汽筒數	四	六	八	八	八
馬力	一、七五〇	四、五〇〇	六、二五〇	六、二五〇	一一、四〇〇
廻轉數	一五〇	二五〇	一二五	一二五	一三六
臺數	二	二	二	二	一

發電機

種類	三相交流	三相交流	三相交流	三相交流	三相交流
製作者	エールリコン	シュナイデル			
電壓	五、二〇〇	五、二〇〇	五、二〇〇	五、二〇〇	五、二〇〇
容量KVA	一、〇〇〇	三、〇〇〇	四、八五〇	四、八五〇	一〇、〇〇〇
周波數	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
廻轉數	一五〇	二五〇	一二五	一二五	一三六
臺數	二	二	二	二	一
据付年	一、九二二	一、九二四	自一、九二四 至一、九二九	自一、九二九 至一、九三三	一、九三三

變流機

種類	同轉式				
製作者					
電壓	五五〇				
容量KW	三五〇				

三、發電狀況

		一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
發電量	KWH	三二、一八八、六九四	三八、九八三、五二九	四三、三七七、一〇八	五四、三八七、一六八	
尖頭負荷	KW	九、六四〇	一〇、九〇〇	一三、一八〇	一五、一八〇	
年負荷率	%	三八·二	四〇·七	三七·八	四〇·八	

四、需用狀況

		一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
電燈需用家	戶	二〇、二一二	二三、五七三	二五、六二一	—
電力需用家	戶	七三三	一、〇七八	一、四九一	—
電熱需用家	戶	五四二	七五五	一、〇五三	—
計	戶	二一、四八七	二四、六〇四	二八、一六五	三〇、二九四

◎註本公司は一一〇V電球を使用せり、この電壓は上海にては異例なり。

五、收支

	收入	支出	利益
一九二九年	四、二五五、八二五兩	—	—
一九三〇年	四、九三九、九〇二兩	—	—
一九三一年	六、〇七四、〇九九兩	—	—
一九三二年	六、二四七、一七七兩	二、六三七、四六七兩	三、六〇九、七一〇兩

六、電車

軌道亘長　三三粁
電氣方式　架空單線式五〇〇V
電動車　八一輛
連結車　三五輛
乘客　一、九三一年　六三、六六二、四〇九人

七、料金（一、九三三年九月現在）

電燈

每月使用電量	初次	四〇〇KWH	〇・一三兩
	次次	四〇〇同	五%引
	次次	三、二〇〇同	一〇%引
	次次	二、〇〇〇同	一五%引
	次次	二、〇〇〇同	二〇%引
	次	全部	二五%引

電力

九馬力以內每月	初次	三〇〇KWH	〇・〇四五兩
	次	全部	〇・〇四〇兩
一〇馬力以上每月	初次	三〇〇KWH	〇・〇四〇兩
	次	全部	〇・〇三五兩
	次	全部	〇・〇四〇兩

電熱　一KWH　〇・一兩

第四節　上海　閘北水電公司

一、沿革

光緒三十四年創立、民國十四年には四、二〇〇KW、十五年には六、三〇〇KW餘の發電所となりしが、民國十七年九月現在の位置を卜し一〇、〇〇〇KW二臺の發電所建設に着手し十九年五月竣工、十二月より運轉を開始せり。次で二十二年實明電氣公司を合併せり。現在資本金九百六十八萬元にして江灣、彭浦、閘北、引翔の四區及殷行區の一部を供給區域とす。

二、發電所設備

發電所容量　二〇、五〇〇KW

汽罐

種類	三相交流
製作者	竪型水管式
汽壓	スコダ
汽溫℃	四〇
加熱面平方米	四〇〇
焚火法	八〇〇
臺數	鎖床 三

註　民國二十一年汽罐一臺增設せるも內容不明なり。

原動機

種類	タービン	タービン	タービン	タービン
製作者	スコダ	スコダ	スコダ	三相交流
容量KW	五〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	スコダ
迴轉數	六、〇〇〇	三、〇〇〇	二	六、六〇〇
臺數	一	二	一、九二九	一〇、〇〇〇
据付年		一、九二九		五〇
發電機				三、〇〇〇
種類	三相交流	三相交流	三相交流	二
製作者	スコダ	スコダ	スコダ	一、九二九
電壓	三、三〇〇	六、六〇〇	六、六〇〇	
容量KW	五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
周波數	五〇	五〇	五〇	
迴轉數	一、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
臺數	一	二	二	
据付年		一、九二九	一、九二九	

三、發電狀況

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
發電量KWH	一	六一五、四九五	六九、六一二、四〇六
購入電量KWH	四三、四七七、三四九	四六、五一五、一七五	六九、六一二、四〇六
計KWH	四三、四七七、三四九	四七、一三〇、六七〇	一五、四七五
尖頭負荷KW	九、一九二	一〇、五九七	五一・二
年負荷率%	五四・〇	五〇・九	

四、電線路

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
電柱數本	五、九七〇	七、一八七	八、〇五一
架空線路粁	一七三	二一九	二三三
地下電纜粁	二	六	二一
變壓器KVA	二〇、〇四五	七四、四四一	八二、九〇五

五、資本金及收支

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
資本金元	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	五、六八〇、〇〇〇
拂込資本金元	三、六二四、八九〇	三、九一〇、五九〇	五、六八一、〇一〇
資產元	七、三一五、五〇八	一〇、〇四七、五一〇	一四、八一〇、九四三
收入元	二、七二四、〇三一	二、九二七、六八五	四、〇五〇、六二二
出元	一、九八九、五八二	二、二一三、八七八	三、一四九、八〇六
益元	七三四、四五〇	七一三、八〇七	九〇〇、八一六
利益率%	二〇・二	一八・二	一五・八

註　民國二十一年九百六十八萬元に增資せり。

六、需用狀況

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
電燈用電量 KWH	五、六一一、五〇八	七、三一七、六五一	一
電力電熱電量 KWH	三二、九六三、四七七	三五、三八二、六九三	一
計 KWH	三八、五七四、九八五	四二、七〇〇、三四四	二三、九四六
電燈需用家戶	一五、三七〇	一八、九四六	一、一一〇
電力需用家戶	七四九	九一九	五一四
電熱需用家戶	一三〇	二六四	二五、五七〇
計 戶	一六、二四九	二〇、二一九	

七、料金　民國二十三年九月現在

電燈

每月使用量		
一、〇〇〇KWH以內	一KWH	〇・一八元
一、五〇〇同		五〇%引
二、〇〇〇同		七五%引
三、〇〇〇同		一〇〇%引
四、〇〇〇同		一五〇%引
五、〇〇〇同		二〇〇%引
六、〇〇〇同		二五〇%引
七、〇〇〇同		三〇〇%引
八、〇〇〇同		三五〇%引
八、〇〇一KWH以上		四〇〇%引

電力

每馬力每月		
一五〇KWH以內	一KWH	〇・〇七〇元
二五〇同	〃	〇・〇六三元
三五〇同	〃	〇・〇五六元
三五一KWH以上	〃	〇・〇四六元

五〇馬力以上は別に協定す。

大需用家は一KWH最低〇・〇二元に達する者あり。

電熱　一KWH　〇・〇五五元

第五節　上海　華商電氣公司

一、沿革

光緒三十年創立し、民國七年內地電燈公司と英華商電車公司と合併して成立せるものにして其の當時資本金七十四萬元なりしが、民國十六年三百萬元に、同二十年三月四百萬元に、同二十一年五百萬元に增資せり。

最初直流發電機を以て營業を開始せるものなるが、民國十一年始めて交流四、〇〇〇KVA發電機一臺据付け、其後十三年より十五年に掛け八、〇〇〇KVA二臺增設し、合計二〇、〇〇〇KVAに達せり。

本公司の供給區域は滬南區全部にして外に電車を兼營す。

二、發電所設備

發電所容量　三相交流　一六、〇〇〇KW

汽罐

種類	水管式	水管式
製作者	スコダ	B B W W
汽壓		
加熱面		

臺數	三		
註　民國二十一年春汽罐二臺增設せるも內容不明なり。			
原動機			
種類	タービン	タービン	タービン
製作者	S S	S S	S S
容量KW	三、二〇〇	六、四〇〇	六、四〇〇
廻轉數	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
臺數	一	一	一
据付年	一、九二一	一、九二三	一、九二五
發電機			
種類	三相交流	三相交流	三相交流
製作者	S S	S S	S S
電壓	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇
容量KW	三、二〇〇	六、四〇〇	六、四〇〇
周波數	五〇	五〇	五〇
廻轉數	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
臺數	一	一	一
据付年	一、九二一	一、九二三	一、九二五

三、發電狀況

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
發電量KWH	二六、三二九、六〇〇	三一、一二四、二〇〇	三六、一三六、三八〇

尖頭負荷KW	七、三五〇	七、五〇〇	七、九五〇	九、五〇〇
年負荷率%	四〇・九	四三・五	四四・六	四三・五
利用率%	一九・四	二五・八	二一・二	二五・八

四、電線路

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
電柱數本	六、五〇〇	六、八八一	七、二八六
架空線粁	一七八	二〇九	二一九
地下線粁	四〇	五一	五七
變壓器KVA	一三、三〇五	一三、四五五	一六、一五五

五、資本金及收支

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
資本金元	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
興業費元	五、三六五、九七五	五、八五六、九七五	七、五五〇、九七一
收入元	二、五八六、二四四	二、八三六、三三一	三、四四二、九〇〇
支出元	一、八〇〇、三八三	二、〇五一、二七八	二、六四九、九九三
利益元	七八五、八六一	七八五、〇五二	七九二、九〇七
收益率			
對資本金%	二六・二	二六・二	二〇・〇
對興業費%	一四・六	一三・四	一〇・五

六、需用狀況

	民國十八年	民國十九年	民國二十年	民國二十一年
電燈用電量	九、五二七、〇七六	一〇、三四四、六二二	—	—
電力熱電量	一二、五三一、四五一	一五、九六〇、一一六	—	—
計	二二、〇五八、五二七	二六、三〇四、七三六	—	—
電燈需用家	二四、二七三	二八、一四五	三二、四九一	三五、二九二
電力需用家	八六四	九六八	一、一七八	一、三〇一
電熱需用家	二四〇	二九〇	三八八	四九〇
計	二五、三七七	二九、四〇三	三四、〇五七	三七、〇八三

七、電車

民國二年八月の開始にして現在軌道亘長一六粁、客車四二輛、連結車一三輛を有し、無軌條電車を採用せるは世界に於ても古き方なり。

八、料金　民國二十三年九月現在

電燈	閘北水電公司に同じ。	
電力		
每馬力每月	一五〇KWH以內	一KWH　〇・〇六二元
	二五〇同	同　〇・〇五五元
	三五〇同	同　〇・〇四八元
	三五一KWH以上	同　〇・〇四二元
電熱		同　〇・〇四二元

第六節　上海　浦東電氣公司

一、沿　革

民國八年資本金五萬元を以て創立、瓦斯發電機による交流一二〇KW一臺、二四〇KW二臺据付け民國九年十二月營業を開始せり。同十四年タービン發電機七五〇KWを据付けたるが、建設委員會の統一方針により華商電氣公司との間に受電契約成立し、二十年三月より一部、二十一年より全部受電するに至れり。

資本金は數次の增資により民國二十一年現在六十二萬三千元なり。

供給區域は浦東全部なり。

二、發電所設備(閉銷中)

發電所容量　六〇〇KW

汽罐

種類	三相交流		
製作者		水管式	
汽壓			
加熱面平方米數		一三二	二

原動機

種類	タービン		
製作者	B B C		
容量KW	六〇〇	三、六〇〇	一

發電機

種類	三相交流		
製作者	B B C		
電壓	二、三〇〇		
容量KW	六〇〇	三、六〇〇	一
周波數	六〇		
廻轉數	三、六〇〇		
臺數	一		
据付年	一九二三		

三、發電狀況

	民國十八年	民國十九年	民國二十年	民國二十一年	民國二十二年
發電容量KW	六〇〇				
受電容量KW		六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
		一	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇

發電量	KWH	一、三八六、八九七	二、〇五二、一三四	二、四〇八、九六七	二、一六六、九二〇	二、一九二、九二〇				
購入電量	KWH	—	—	六三七、二四〇	一、九六九、六一七	五、三三八、五五〇				
合計電量	KWH	一、三八六、八九七	二、〇五二、一三四	三、〇四六、二〇七	四、一三六、五三七	七、五三一、四七〇				
發電尖頭負荷	KW	四五〇	六五〇	—	六七五	六七五				
受電尖頭負荷	KW	—	—	—	五〇〇	一、四三〇				
合計尖頭負荷	KW	四五〇	六五〇	九三二	一、一五六	一、七七〇				
年負荷率	%	三五·二	三六·〇	三七·三	四〇·八	四八·六				
自用電量	KWH	—	三二七、五一五	三〇四、九五三	三一七、四三九	三一三、〇八三				
供給電量	KWH	—	一、三七七、二七一	二、二一七、五七五	三、八一九、〇九八	七、二〇八、三八七				
損失電量	KWH	—	三四七、三四八	五二三、六七九	六〇四、四二〇	六八七、三三五				
一KWH當石炭價格	元	一·九一	一·八一	一·七二	一·七七	一·七四				
一KWH當石炭價格	元	〇·〇二四二	〇·〇二〇八	—	〇·〇三四六	〇·〇三四九				
同　購入價格	元	—	—	—	〇·〇三八四	〇·〇三七七				

四、電線路

	民國十八年	民國十九年	民國二十年	民國二十一年	民國二十二年
電柱數本	二、〇二六	二、六二五	三、八八一	四、七三六	六、二一二
架空線線料	六二	八〇	一一七	一三九	一八二
地下線線料	—	—	—	二	三
變壓器臺數臺	—	六六	八四	八七	九七
變壓器容量	KVA	一、三四四	一、五五六	三、四〇八	四、一〇二	四、九四七

五、資本金及收支

	民國十八年	民國十九年	民國二十年	民國二十一年	民國二十二年
資本金	元	四〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	六五一、四五〇
興業費	元	五六五、八八三	七四一、七四一	八五九、二二八	一、〇四四、〇八〇	一、三三二、五四八
收入	元	一六五、七五〇	二〇三、一八四	三〇八、七六一	三七七、二九九	五五三、九一九
支出	元	一一二、三九	一四七、一三八	二三九、五〇二	二九五、九〇四	四四九、三九〇
利益	元	五四、五一	五六、〇四六	六九、二五九	八一、三九五	一〇四、五二九
收益率		一三·六	一一·二	一三·八	一六·二	一六·〇
對資本金	%	九·六	八·〇	八·〇	七·六	七·九
對興業費	%					

六、需用狀況

	民國十八年	民國十九年	民國二十年	民國二十一年	民國二十二年
電燈用電量	七六七、五三七	九七〇、八七五	—	一、三四〇、二一一	一、六四二、七三一
電力用電量	一五二、九九四	四〇六、三九六	—	一、八七四、四六七	四、八七八、三二一
計	九一〇、五三一	一、三七七、二七一	—	三、二一四、六七八	六、五二二、〇五二
電燈需用家	一、六四四	二、九九九	五、一六八	六、一三五	七、八六〇
電力需用家	二七	五六	八八	一二九	一六四
計	一、六七一	三、〇五五	五、二七六	六、二六四	八、〇二四

七、料　金　民國二十三年九月現在

電燈

每月電量		
一〇〇〇KWH以內	一KWH	〇・二〇元
一、五〇〇同		五・〇%引
二、〇〇〇同		七・五%引
三、〇〇〇同		一〇・〇%引
四、〇〇〇同		一五・〇%引
五、〇〇〇同		二〇・〇%引
六、〇〇〇同		二五・〇%引
七、〇〇〇同		三〇・〇%引
八、〇〇〇同		三五・〇%引
八、〇〇一KWH以上		四〇・〇%引

電力　閘北水電公司に同じ。

電熱　一KWH　〇・〇七元

第七節　上海　翔華電氣公司

一、沿革

本公司は民國十二年の創業にして資本金二十五萬元全額拂込なるも上海電氣事業者中最少なるものの一つなり。然れども供給區域上海繁盛區たる引翔區の一部なるため營業相當に發展し、民國十七年には最高負荷四〇〇KWに達し、發電設備內燃機關四臺五七五KVAを有するに至りしが、建設委員會の統一計畫により民國十九年一月より發電所を閉鎖し閘北水電公司より受電するに至れり。

二、電線路

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
電柱數本	三九四	四二二	四七五
架空線粁	一一	一一	一二
變壓器KVA	—	一、二五〇	一、五五〇
供給電量KWH	一、三九一、七五二	一、八七〇、九一〇	二、七七三、一〇〇
尖頭負荷KW	四六二	四九〇	六五〇
年負荷率%	三三・七	四三・七	四八・五

三、資本金及收支

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
資本金元	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
興業費元	三四〇、九六三	三七〇、六〇二	四二九、六一九
收入元	一二三、二四四	一四八、一七九	二三一、八七二
支出元	八五、九一五	一〇六、六八四	一六九、九四四

利　益　元　三七、三二九　四一、四九五　五一、九二八
收　益　率
對資本金%　一五・〇　一六・六　二〇・八
對興業費%　一一・〇　一一・二　一一・一

四、需用狀況

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
電燈需用家戶	八三六	一、二六七	一、七六一
電力需用家戶	一二二	一四四	二二五
電熱需用家戶	四	五	七
計　戶	九六二	一、四一六	一、九九三

五、料　金

民國二十三年九月現在

電　燈　開北水電公司に同じ。

電　力

每馬力每月	一五〇KWH以內	〇・〇八元
	二五〇同	同　〇・〇七
	三五〇同	同　〇・〇六
	三五一KWH以上	同　〇・〇五

電　熱　同　〇・〇七

第八節　上海　眞茹電氣公司

一、沿　革

本公司は上海電氣公司中最少なるものにして資本金二萬七千七百元全額拂込なり。眞茹區を營業區域とし四六KVAの發電所を有せしが建設委員會の統一計畫により民國十七年一月發電を停止し、閘北水電公司より受電するに至れり。

二、配電設備

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
電柱數本	三一九	三一九	三八七
變壓器KVA	一一〇	一一〇	四八〇
線路亘長粁	七	七	一
配電量KWH	一三四、三二四	一七七、二三三	二二七、七〇八
職工數人	一二	一四	一六

三、需用狀況及收支

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
電燈需用家戶	一五三	二三七	二八九
電力需用家戶	一	一	二
資本金元	二七、七〇〇	二七、七〇〇	二七、七〇〇

固定資金元	四四、三七四	四七、二一三
収入元	二四、四三一	二五、七九九
支出元	一八、七〇九	二三、三六〇
利益元	五、七二二	二、四三九
収益率%	二〇・六	八・七

第九節　上海　永安第一、第二紗廠

発電所設備

発電所容量	三相交流	三、五〇〇KW
汽罐		
種類	タービン	タービン
製作者	S S	E E C
容量KW	一、〇〇〇	一、〇〇〇
廻転數	三、〇〇〇	三、〇〇〇
臺數	一	一
不明		
原動機		
種類	タービン	タービン
製作者	S S	G E
容量KW	一、〇〇〇	一、五〇〇
廻轉數	三、〇〇〇	三、〇〇〇
臺數	一	一
発電機		

種類	三相交流	三相交流
製作者	S S	E E C
電壓	五五〇	五五〇
容量KW	一、〇〇〇	一、〇〇〇
周波數	五〇	五〇
廻轉數	三、〇〇〇	三、〇〇〇
臺數	一	一
据付年	一、九二一	一、九二一

第一〇節　上海　恒太紗廠

発電所設備

発電所容量	三相交流	三相交流
汽罐	S S	G E
種類	五五〇	五八〇
製作者	一、〇〇〇	一、五〇〇
汽壓	五〇	五〇
加熱面	三、〇〇〇	三、〇〇〇
臺數	一	一
原動機	一、九二一	一、九二八
種類	三相交流	一、二〇〇KW
製作者	スターリング	
汽壓	B W	
加熱面		
臺數	二	

種類	タービン	タービン
製作者	GE	IGE
容量KW	七〇〇	五〇〇
廻轉數		
臺數	一	一

發電機

種類	三相交流	三相交流
製作者	GE	IGE
電壓		
容量KW	七〇〇	五〇〇
周波數		
廻轉數		
臺數	一	一

第一一節　上海　大通紗廠

發電所設備

發電所容量　二五〇KW

汽罐

種類	BW	
製作者	BW	

汽壓		
加熱面		
臺數		二

汽機

種類	ユニフロー	
製作者	ズルザー	
馬力	四〇〇	
臺數	一	

發電機

種類		
製作者		
電壓		
容量KW	二五〇	
臺數	一	

第一二節　上海　振華紗廠

發電所設備

發電所容量　三五〇KW

汽罐

種類　ランカッシヤー
製作者　モロラム
大さ　徑八呎　長二八呎
臺數　二

汽機
種類　橫型
製作者　スコット
馬力數　三五〇
臺數　一

發電機
種類
製作者
壓
容量　KW
臺數

第一三節　上海

上海水泥公司

一、沿革

民國十年設立資本一、六三八、六〇〇元。

二、發電所設備

發電所容量　一、二〇〇KW

汽罐
種類　三相交流
製作者　B W
壓　B W
馬力數　四
臺數

原動機
種類　タービン
製作者　S S
容量　KW　一、二〇〇
廻轉數
臺數　一

發電機
種類　三相交流
製作者　S S

電壓　五五〇
容量　KW　一二〇〇
周波數　五〇
迴轉數　一
臺數　一
付年　一九二二

第一四節　上海　英美煙公司

發電所設備　一、三五〇KW
發電所容量　六〇
汽罐
　不明
原動機
　種類　タービン
　製作者　GEC
　容量　KW　一〇〇〇
　迴轉數　四、八〇〇
　臺數　一
　付年　不明
發電機
　種類　タービン
　製作者　GEC
　容量　KW　六二五
　迴轉數　四三〇〇
　臺數　二
　付年　不明

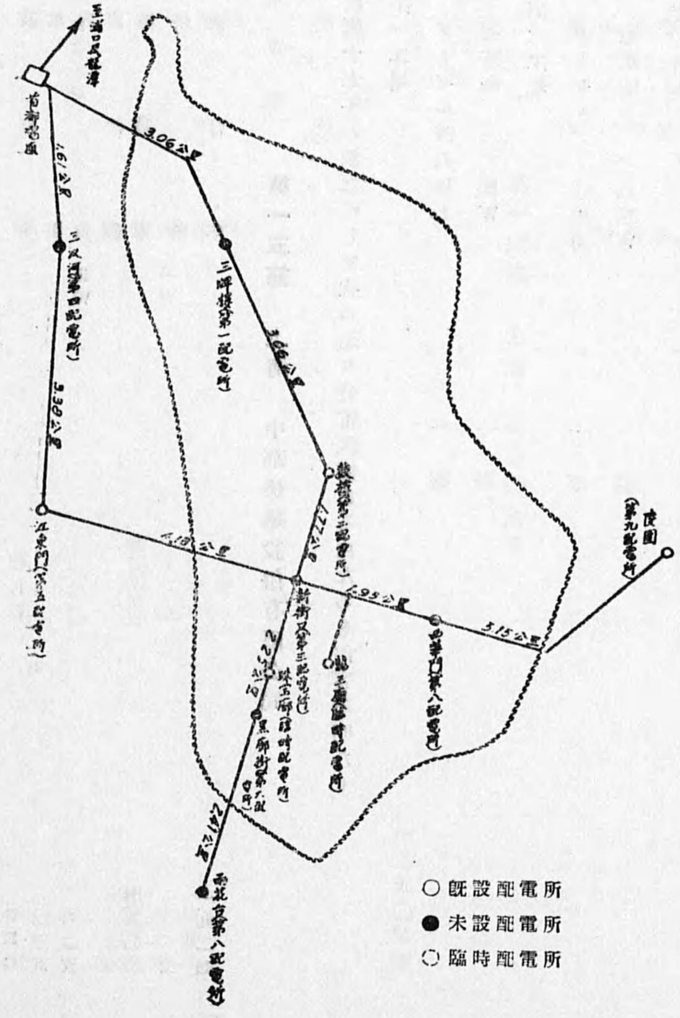
製作者　GEC
電壓　二三五
容量　KW　六二五
周波數　四三〇〇
迴轉數　二
臺數　一
付年　一九二四

第一五節　上海　中華煤球股份有限公司

民國十五年の創立にして次の通り發電設備ある由なるも內容不明なり。

第一工場
　デーゼル四六馬力　一臺
　發電機　二KW　一臺
第二工場
　デーゼル二一〇馬力　一臺
　發電機　二八KW　一臺
第三工場
　發電機　三臺

第一六節　南京　首都電廠　附下關分廠



一、沿　革

宣統元年金陵電燈廠創立され、天華門に發電所を建設し同三年より營業を開始せり。當時資本金三十三萬九千四百兩なりしが、民國元年省立南京電燈廠と改稱され、同六年下關發電所建設に着手、八年竣工せり。

民國十六年五月民國政府南京に移り、翌十七年四月本廠も建設委員會の手に移り、首都電廠と改稱されたり。

二、發電所設備

西華門發電所容量　三相交流　一、二〇〇KW

電壓二、三〇〇V　六〇サイクル發電機八臺一、二〇〇KWある由なるも民國二十一年閉鎖せり。

下關舊發電所容量　三相交流　三、三五〇KW

汽罐

種類		ハイネ	
製作者	B W	米國	B W
汽壓	一五〇	二〇〇	一五〇
加熱面平方呎	二、五三一	二、二五〇	二、五三一
臺數	四	二	四

原動機	種類	タービン	
	製作者	G E	
	容量 KW	一、〇〇〇	
	廻轉數	三、六〇〇	
	臺數	一	
發電機	種類	三相交流	
	製作者	G E	
	電壓	二、三〇〇	
	周波數	一、〇〇〇	
	容量 KW	六〇	
	廻轉數	三、六〇〇	
	臺數	一	
據付年		一、九二一	
周波數變換機			
製作者		M V	
容量 KW		二、五〇〇	
臺數		一	

原動機	種類	タービン	
	製作者	G E	
	容量 KW	七五〇	
	廻轉數	三、六〇〇	
	臺數	一	
發電機	種類	三相交流	
	製作者	G E	
	電壓	二、三〇〇	
	周波數	七五〇	
	容量 KW	六〇	
	廻轉數	三、六〇〇	
	臺數	一	
據付年		一、九二九	
周波數變換機			
製作者		タービン	
容量 KW		瑞JMW	
臺數		一、六〇〇	
發電機			
製作者		三相交流	
容量 KW		瑞JMW	
廻轉數		二、三〇〇	
臺數		一、六〇〇	
據付年		六〇	
下關新發電所容量		一	
汽罐			
種類		水管式	
製作者		ボルジック	
汽壓		七〇〇	
加熱面平方米		二	
臺數			
原動機	種類	タービン	
	製作者	S S	
	容量 KW	五、〇〇〇	
	廻轉數		
	臺數	二	
發電機	種類	三相交流	
	製作者	S S	
	電壓		

容　　量　KW　五、〇〇〇
周　波　數　五〇
廻　轉　數
臺　　數　二
据　付　年　一、九三三

註　本發電所は六〇、〇〇〇KWを目標として建設中にして一、九三四年には汽罐二臺一〇、〇〇〇KW發電機一臺增設豫定なりしが成否不明なり周波數は五〇サイクルに統一すべしと。
因に一、九三〇年一二月の尖頭負荷は四六八九KWなり。

三、發電狀況

	民國十七年	民國十八年	民國十九年	民國二十年
年發電量KWH	三、七七七、〇〇〇	七、二五六、四〇七	一〇、一五九、九〇〇	一三、九三六、九〇六
尖頭負荷KW	一、七五〇	二、八八九	四、六八九	四、六五七
平均負荷KW	四三一	八三〇	一、一五〇	一、五九〇
年負荷率%	二四・三	二八・七	二四・八	三四・三
一KWH當石炭量 斤度	五・〇六	四・二五	三・八二	三・七四
同　價格　分	三・九一	二・六八	二・五二	二・四七
發電所容量KW	一、七九〇	三、〇〇〇	四、六〇〇	四、六〇〇
電量分布　電燈KWH	四、六六四、八四〇	六、三二五、七五三	八、六七六、三七〇	
同　力	五五二二	二三七六四〇	七七九二五八	

	民國十七年	民國十八年	民國十九年	民國二十年
自用KWH	四三六、八四五	六二四、四五九	七二八、八三〇	
損失同	二、一四九、二〇〇	二、九七二、〇四八	三、七五七、八四八	

四、電線路

	民國十七年	民國十八年	民國十九年	民國二十年
支持物本				
鐵柱	一	一	一	一
コンクリート	一	一	一	一
木柱	一	一	一	一
計	一	一	一	一
亘長華里	六	一三	一〇	九
特高壓	一	一	一	一
高壓	一	一	一	一
低壓	一	一	一	一
計	一	一	一	一
送電變壓器臺數	六	一二	一〇	九
KVA	一、五〇〇	二、八二〇	六、二〇〇	六、九五〇
配電變壓器臺數	一二八	一九一	二八五	三八〇
KVA	二、八六八	三、六〇一	四、九八七	六、五一六

五、資本金及收支　元

	民國十七年	民國十八年	民國十九年	民國二十年
固定資金	五二三、一一七	七四七、一九六	一、四八四、五二七	三、三一〇、八三四
收入	—	八〇二、一四六	一、一六〇、九七三	一、五九一、一九一
支出	—	四三〇、三五七	六四二、四八八	八九七、七三二
利益	—	三七一、七八九	五一八、四八五	六九三、四五九
金利	—	—	三〇〇、〇〇〇	—
純利益	—	—	二一八、四八五	—
收益率	—	—	一五%	—
資金				
短期公債元	—	—	—	二、五〇〇、〇〇〇
英國借款磅	—	—	—	三〇、〇〇〇

六、需用狀況

	民國十七年	民國十八年	民國十九年	民國二十年
電燈戶	三、三七一	六、六八六	九、八〇〇	一三、六九九
電力戶	—	七	三三	六八
同馬力	—	四七	四〇六	六八七

七、料金　民國二十三年九月現在

電燈	每月電量	初	五〇〇KWH
		次	五〇〇同
		次	一、〇〇〇同
		次	一、〇〇〇同
		次	二、〇〇〇同
		次	三、〇〇〇同
		次	全部
電力	每馬力每月	初	二五KWH
		次	二五同
		次	五〇同
		次	一〇〇同
		次	一〇〇同
		次	全部
電熱			

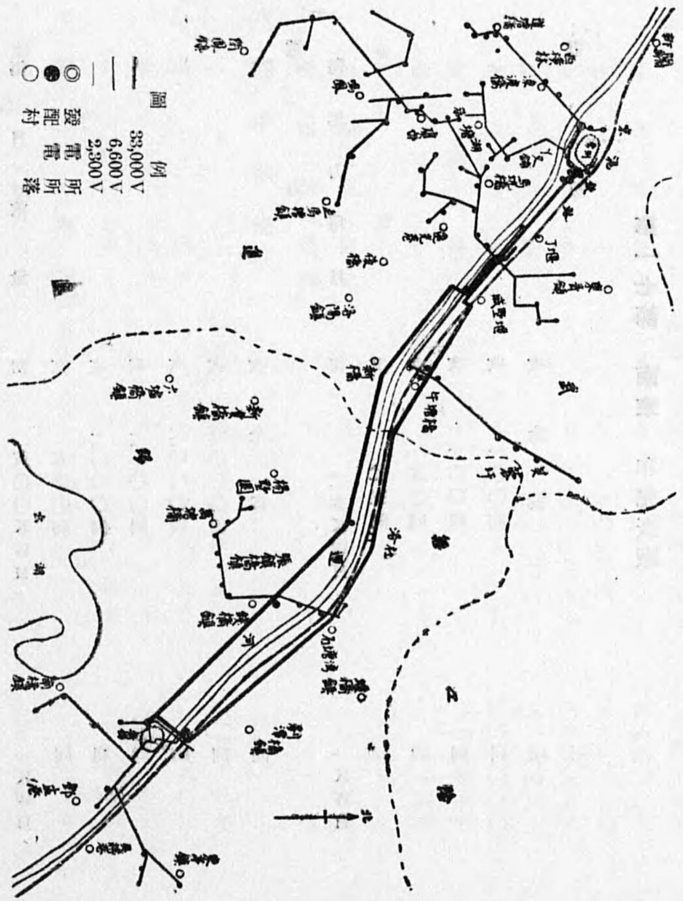
電燈	每月電量	初	一KWH
		次	同
		次	同
		次	同
		次	同
		次	同
		次	同
		次	同
電力	每馬力每月	初	一KWH
		次	同
		次	同
		次	同
		次	同
		次	同
		次	同
電熱			

電燈	每月電量	初	〇・二〇元
		次	〇・一七
		次	〇・一五
		次	〇・一三
		次	〇・一一
		次	〇・〇九
		次	〇・〇七
電力	每馬力每月	初	〇・〇六
		次	〇・〇五
		次	〇・〇四五
		次	〇・〇四
		次	〇・〇三五
		次	〇・〇三
		次	〇・〇七
電熱			

第一七節　南京　和記蛋廠

英國人の經營にして汽罐一二臺、汽機七臺、發電機三臺有する由なるも內容不明なり。

第一八節　武進　武錫　戚墅堰電廠



一、沿革

民國十年資本金二百五十萬元の震華電機製造廠に於て兼業として電氣供給を開始せるが、その後電氣供給事業が主業となり、戚墅堰鎭車村西方運河に臨みて極めて水利の便好き地に三、二〇〇KW二臺を有する發電所を建設し武進武錫間を三三、〇〇〇V送電線により連絡供給するに至れり。此附近の開發につれ他の電氣事業起り供給區域共他につき競爭を惹起せるが民國十七年十月一日建設委員會之を接收し、其名を戚墅堰電廠と改め同年十二月十五日より無事供電するに至れり、其後益々發展し同二十年春三、二〇〇KW一臺同二十三年七、五〇〇KW一臺增設せり。

二、發電所設備

發電所容量　一七、一〇〇KW

三相交流

汽罐

種類	B W	B W	
製作者	B W	B W	
汽壓			
加熱面平方米	四〇〇	五五五	
臺數	四	一	

原動機

種類	タービン	タービン	
製作者	S S	A E G	
容量KW	三、二〇〇	七、五〇〇	

迴轉數	三〇〇〇	
臺數	二	一

發電機

種類數	三相交流	三相交流
製作者	S S	A E G
電壓	六、六〇〇	六、六〇〇
容量 KW	三、二〇〇	七五〇〇
周波數	五〇	五〇
迴轉數	三〇〇〇	
臺數	二	一
據付年	一、九二二	一、九三一

三、發電狀況

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
年發電量 KWH	一八、〇九六、九一〇	二二、一五九、九七〇	二五、九六四、二九〇
尖頭負荷 KW	三、五〇〇	四、一二三	四四九一
平均負荷 KW	二、〇六〇	二、五三〇	二、九七〇
年負荷率 %	五八・六	六一・五	六六・三
一KWH當石炭量 封度	二・八二	二・九一	二・六九
同價格 分	一・四九	一・五三	一・五七

發電所容量	六、四〇〇	六、四〇〇	九、六〇〇
電量分布			
電燈 KWH	一三、一六五、〇六四	一七、六四三、五七六	三四、九六六、九
電力同	三三八、九六一	三八五、九四一	九〇一、八〇七
自用同	四、五九二、八八〇	四、一三〇、五四三	四、七六三、〇二八

四、電線路

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
支持物本			
鐵柱	一	一	七七
コンクリート柱	一	一	八四九
木柱	一	一	七、四〇六
計	七、一三〇	七、六八〇	八、三三二
亘長 華里	七七	一三七	一三七
特高壓	三四四	二七七	二九四
高壓	二一八	二三〇	二五八
低壓	五三九	六四四	六八九
計			

送電變壓器			
臺數	六	七	七
KVA	六、〇〇〇	八、〇〇〇	八、五〇〇
配電變壓器			
臺數	一三八	一五八	一六八
KVA	八、〇〇八	八、二一二	八、五六三

五、資本金及收支

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
固定資金	—	二、〇〇六、二〇四	二、三二七、五一四
收入	八七四、〇八六	一、〇四一、二一九	一、一六七、六九六
支出	四七〇、二六〇	六〇五、八九四	六九七、四八一
利益	四〇三、四六四	四三五、三二五	四七〇、二一五
收益率%	—	二一・七	二〇・二

六、需用狀況

	民國十八年	民國十九年	民國二十年
電燈戶	八、三一六	九、二九一	一〇、九九四
電力戶	三一九	三八四	三三九
同馬力	六、三三四	六、九五三	六、五四〇

七、料金　民國二十三年九月現在

電燈			
每月電量	初	五〇〇KWH	一KWH	〇・一八元
	次	五〇〇同	同	〇・一七
	次	五〇〇同	同	〇・一六
	次	五〇〇同	同	〇・一五
	次	全部同	同	〇・一四
電力				
每月電量	初	一〇〇KWH	一KWH	〇・〇五五
	次	四〇〇同	同	〇・〇五〇
	次	五〇〇同	同	〇・〇四五
	次	九、〇〇〇同	同	〇・〇四〇
	次	二〇、〇〇〇同	同	〇・〇三五
	次	全部	同	〇・〇三〇
一〇〇馬力以上は協定す。				
基本料金　每馬力每月				一・四〇
電熱				
每月電量	初	五〇KWH	一KWH	〇・一四四
	次	五〇同	同	〇・一三五
	次	全部	同	〇・一二六

五KW以上の電熱は電力料金に同じ。

二〇、〇〇〇KWH以上

電力

基本料金　一馬力一箇月　一、四〇

電氣料　一〇〇KWH迄　一KWHに付　〇、〇五五

一〇〇KWH以上　五〇〇KWH迄　〇、〇五〇

五〇〇KWH以上　一、〇〇〇KWH迄　〇、〇四五

一、〇〇〇KWH以上　一〇、〇〇〇KWH迄　〇、〇四〇

一〇、〇〇〇KWH以上　三〇、〇〇〇KWH迄　〇、〇三〇

三〇、〇〇〇KWH以上　〇、〇三〇

以上何れもブロック式なり

第一九節　武進　武進電氣廠

一、沿革

民國三年創立資本金六十萬元の公司なり

二、發電所設備

發電所容量　三、五〇〇KW

汽罐

種類　三相交流

製作者　BBC

汽壓　一二〇

臺數　一

原動機

種類　タービン

製作者　BBC

容量　一、五〇〇

KW　三〇〇〇

臺數　一

發電機

種類　三相交流

製作者　BBC

電壓　二二〇〇

周波數　一、五〇〇

轉數　五〇

臺數　三〇〇〇

KW　一

年　一、九二四

種類　タービン

製作者　MV

汽壓　二〇〇〇

臺數　一

原動機

種類　タービン

製作者　MV

容量　一、五〇〇

KW　三〇〇〇

臺數　一

發電機

種類　三相交流

製作者　MV

電壓　二二〇〇

周波數　一、五〇〇

轉數　五〇

臺數　三〇〇〇

KW　一

年　一、九三二

據付　BW

第二〇節　武進　民豐紗廠

發電所設備

發電所容量	三相交流	五〇〇KW
汽罐		
種類		
製作者		BW
汽壓		
臺數		二
原動機		
種類		タービン
製作者		BBC
容量	KW	五〇〇
廻轉數		三、〇〇〇
臺數		一
發電機		
種類		三相交流
製作者		BBC
電壓		二、二〇〇
容量	KW	五〇〇
周波數		五〇
廻轉數		三、〇〇〇
臺數		一
据付年		一、九一九

第二一節　蘇州　蘇州電氣廠

一、沿革

民國九年日本の投資により資本金三十萬元の振興電燈公司設立せるが當時排日思想旺盛の時にして數箇所に民國人小發電機を据付け之に對抗せり。本公司は之等小事業を買收し資本金百二十萬元に增加せるが其後種々なる經緯を經て民國十六年交通部の買收する處となり資本金二百八十七萬二千元とせり。

供給區域は別圖の如く吳縣全部と無錫の一部に亙れり。發電所は始め三一五KVAに過ぎざりしも其後一、六〇〇KWを据付け次で民國十五年三、六〇〇KW一臺、同二十年五、〇〇〇KW一臺据付けたり。

二、發電所設備

發電所容量				九、三五〇KW
汽罐	種類	水管式	水管式	水管式
	製作者			スコダ
	汽壓	二五〇	一、七五〇	二、八五二
	加熱面平方呎	二	二	一
	臺數	二	一	二
原動機	種類	タービン	タービン	タービン
	製作者	BEC	BBC	SS
	容量KW	七五〇	三、六〇〇	五、〇〇〇
	廻轉數		三、〇〇〇	
	臺數	一	一	一
發電機	種類	三相交流	三相交流	三相交流
	製作者	BEC	BBC	SS
	電壓	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇

容量　KW　七五〇　三、六〇〇　五、〇〇〇
周波數　〃　五〇　〃　五〇　〃　五〇
廻轉數　三、〇〇〇
臺數　一　一　一
据付年　一、九二五

註　初め Jonkoping Mekaniska Verkstad, A.B. Sweden の二、〇〇〇KVA一臺据付けたるものらしきも何時七五〇KWに變りしや不明(編者)

三、收支及資産

收入（自民國二十年四月至民國二十一年三月）

電氣收入	一、〇一五、四五一・六一
雜收入	二八、三七三・七〇
計	一、〇四三、八二五・三一

支出

事務費	二二一、〇七〇・三〇
發電費	二八〇、一四七・〇五
利息	七一、一三二・八一
官息	一五〇、〇〇〇・〇〇
償却費	九二、〇〇〇・〇〇
建設費	七六、〇〇〇・〇〇
計	八九〇、三五〇・一六
純利益	一五三、四七五・一五

資産　二十一年三月末

未拂込株金	六〇〇、〇〇〇
機器	七三二、一三〇・七七
電線路	六七七、九二三・二九
土地家屋	一九一、〇〇八・六八
振興電氣買收	八二五、二七三・〇〇
其他	五八五、五二四・二三
計	三、六一一、九五九・九七

負債

資本金	二、四〇〇、〇〇〇
長期借款	四六四、九三四・九六
未拂利息	一七八、五四五・九一
其他	四一五、〇〇三・九五
純益金	一五三、四七五・一五
計	三、六一一、九五九・九七

四、需用狀況　民國二十年

從量燈　八、〇四九戶

定額燈　三、七七五戶
計　一二、八二四戶
電力　一七六戶　二、〇〇〇、〇〇〇KWH

五、料金　民國二十三年九月現在

定額燈（漸次廢止の豫定）　一二〇W　一・二〇

從量燈　城區　一KWH　〇・二〇
　　鄉區　同　〇・二二
每月電氣料　五〇元以內　二五%引
一〇〇元以內　五〇%引
一五〇元同　一〇〇%引
二〇〇元同　一五〇%引
二五〇元同　二〇〇%引
三〇〇元同　二二五%引
五〇〇元同　二五〇%引
五〇〇元以上　協定

電力　每馬力每月　一KWH
五〇KWH以內　同　〇・〇八〇－〇・〇六五
一〇〇同　同　〇・〇八三－〇・〇六二
一五〇同　同　〇・〇八一－〇・〇五九
二〇〇同　同　〇・〇七九－〇・〇五六
二五〇KWH以內　同　〇・〇七七－〇・〇五三
三〇〇同　同　〇・〇七五－〇・〇五〇
三五〇同　同　〇・〇七三－〇・〇四七
四〇〇同　同　〇・〇七一－〇・〇四五
四五〇同　同　〇・〇六九－〇・〇四三
四五一KWH以上　同　〇・〇六七－〇・〇四一

協定　一KWH　〇・〇三八
最小料金　同　〇・〇八

電熱　一KWH　同

第二二節　浦口　津浦鐵路電燈廠

一、沿革

本廠は民國九年津浦鐵路工廠に設置されたる發電機を以て一般に供給を開始せるものなり。

二、發電所設備

發電所容量　三相交流　一、五五〇KW
汽罐
不明
原動機

種類	ダービン
製作者	EEC
容量KW	一、〇〇〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
發電機	
種類	三相交流
製作者	EEC
電壓	六、六〇〇
容量KW	一、〇〇〇
周波數	五〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
据付年	一、九二二

種類	ダービン
製作者	EEC
容量KW	五五〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
發電機	
種類	三相交流
製作者	EEC
電壓	六、六〇〇
容量KW	一、〇〇〇
周波數	五〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
据付年	一、九二二

第二三節　鎭江　大照電燈公司

一、沿革

光緒三十一年の創立にして資本金七十萬元、江蘇省に於ける大なる電燈公司の一なり。

二、發電所設備

發電所容量　二、七五〇KW

發電機　三相交流

種類	タービン
製作者	GE
容量KW	三〇〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
發電機	
種類	三相交流
製作者	GE
電壓	三、〇〇〇
容量KW	三〇〇
周波數	五〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
据付年	一九二〇

汽罐	
不明	
原動機	
種類	タービン
製作者	BBC
容量KW	七五〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
發電機	
種類	三相交流
製作者	BBC
電壓	三、一五〇
容量KW	七五〇
周波數	五〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
据付年	一、九二二

種類	タービン
製作者	BBC
容量KW	一、七〇〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
發電機	
種類	三相交流
製作者	BBC
電壓	三、一五〇
容量KW	一、七〇〇
周波數	五〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
据付年	一、九二六

註　最近の調査書に依れば發電機五臺三、〇七〇KWとあり此の外に小發電機二臺あるらしきも不明。

第二四節　江都　振揚電燈公司

一、沿革

民國十二年開業初め資本金十萬元なりしが再度の增資により現在五十三萬なり。

二、發電所設備

發電所容量　一、五〇〇KW

汽罐

種類	三相交流
製作者	
汽壓	一二
加熱面數	
臺數	一

原動機

種類	タービン
製作者	
容量KW	一、五〇〇
廻轉數	
臺數	一

發電機

種類	三相交流
製作者	
電壓	二二〇〇
容量KW	一、五〇〇
周波數	五〇
廻轉數	
臺數	一

第二五節　南通　大生第一紡織公司

一、沿革

光緒二十二年の開業にして自家用發電所デーゼル機關四〇〇KWを有せしが、民國二十三年五、〇〇〇KW一臺增設、通明電燈公司との間に協定なり一般にも供給を開始せり。

註　便宜上本書にては自家用に編入せり。

二、發電所設備

發電所出力　五、四〇〇KW

汽罐　三相交流

種類	BW	
製作者	英國	
電壓		
加熱面 平方米	六一〇	
臺數	二	
原動機		
種類	タービン	デーゼル
製作者	AEG	
容量 KW	五、〇〇〇	
廻轉數		
臺數	一	不明
發電機		
種類	三相交流	三相交流
製作者	AEG	
電壓		
容量 KW	五、〇〇〇	不明
周波數		
廻轉數		
臺數	一	不明
据付年	一、九三四	

第二六節　南通　大生第六紗廠

發電所設備		
發電所容量	三相交流	七五〇KW
汽罐		
不明		
原動機		
種類	タービン	
製作者	GE	
容量 KW	七五〇	
廻轉數	三、六〇〇	
臺數	一	
發電機		
種類	三相交流	
製作者	GE	
電壓	六〇〇	
容量 KW	七五〇	

周波數	六〇	
廻轉數	三、六〇〇	
臺數	一	
据付年	一、九二一	

第二七節　南通　廣生搾油公司

汽罐一二〇馬力二臺、同一五〇馬力一臺

汽機米國製一〇〇馬力一臺、同英國製一二〇馬力一臺

發電機二臺あるも內容不明

第二八節　無錫　振新紗廠

發電所設備

發電所容量	三相交流	二、五五〇KW
汽罐		
不明		
原動機		
種類	タービン	タービン
製作者	SS	AEG
容量KW	一、二五〇	一、三〇〇
廻轉數	三、〇〇〇	
臺數	一	一

發電機

種類	三相交流	三相交流
製作者	SS	AEG
電壓	三五〇	五五〇
容量KW	一、二五〇	一、六〇〇
周波數	五〇	五〇
廻轉數	三、〇〇〇	
臺數	一	一
据付年	一、九二一	一、九一〇

註　最近の調査によれば發電容量二、七四〇KWとあり、他に一五〇KW位の發電機一臺あるものらし。

第二九節　無錫　慶豐紗廠

發電所設備

發電所容量	三相交流	二、六〇〇KW
汽罐		

種類	
製作者	B W
汽壓	B W
臺數	三
原動機	
種類	タービン
製作者	E E C
容量KW	一、〇〇〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
發電機	
種類	三相交流
製作者	E E C
電壓	二、三〇〇
容量KW	一、〇〇〇
周波數	五〇
廻轉數	三、〇〇〇
臺數	一
据付年	一、九二一

註　外に一六〇〇KWある筈なるも不明なり。

第三〇節　無錫　申新紗廠

發電所設備　六、五六〇KW

發電所容量　三相交流

汽罐

不明	
原動機	
種類	タービン
製作者	アリスチヤルマー
容量KW	二、〇〇〇
廻轉數	
臺數	二
發電機	
種類	三相交流
製作者	アリスチヤルマー
容量KW	
電壓	
周波數	二、〇〇〇

廻轉數	二
臺數	二

註　外に一、五六〇KWある筈なるも不明なり。

第三一節　無錫　中國水泥公司

一、沿革

民國十七年大湖水泥公司を買收擴張せるものにして資本金二百萬元なり。

二、發電所設備

發電所容量		二、〇〇〇KW
汽罐	種類	交流
	製作者	B W
	汽壓	B W
	馬力數	六
	臺數	
原動機	種類	タービン
	製作者	
	容量KW	一、〇〇〇
	廻轉數	二
	臺數	
發電機	種類	三相交流
	製作者	
	電壓	
	容量KW	一、〇〇〇
	周波數	二
	廻轉數	
	臺數	

第三二節　句容　中國水泥公司

（中國經濟年鑑民國二十三年版）

發電所設備	
發電所容量	二、五八〇KW
汽罐 種類	三相交流
第二編　江蘇省	B W

製作者		B W
汽壓		
加熱面		
臺數		六
原動機		
種類		タービン
製作者		
容量	KW	一、〇〇〇
廻轉數		二
臺數		
發電機		
種類		三相交流
製作者		
電壓		
容量	KW	一、〇〇〇
周波數		
廻轉數		
臺數		三

註　外に五八〇KWあるらしきも不明なり。

第三三節　銅山　華東煤礦公司

發電所設備		
發電所容量		四〇KW
汽罐		
種類		コルニッシュ
汽壓		
封度		八〇
臺數		七
汽機		
種類		ランカッシャー
不明		
發電機		
種類		直流
製作者		英國
電壓		二二〇
容量	KW	四〇
廻轉數		六四〇
臺數		一

電燈約七〇〇燈點燈す。

江蘇省電氣事業一覽表（外資の分も含む）

地點	事業者	組織	設立年	資本金(元)	目的	職工數	發電機數	電壓	種類	周波數	原動力	發電容量
南京西華門	首都電廠	國營	宣統元年	三,六〇〇,〇〇〇	燈、力、熱	三二一	一一	二,三〇〇	交流	六〇	汽五 油六	KW 一,二五〇
同　下關	同下關分廠	同	民國九年	一,七四,五七〇	燈、力、熱	三七三	五	二,三〇〇	同	六〇	汽	一三,三五〇
武進戚墅堰	戚墅堰電廠	同	民國一二年	二,五〇〇,〇〇〇	燈、力、熱	三一五	四	六,六〇〇	同	五〇	汽	一七,一〇〇
同　大北門	武進電氣廠	民營	民國三年	六〇〇,〇〇〇	燈、力	九一	二	二,二〇〇	同	五〇	汽	三,五〇〇
同　奔牛	溥明電燈公司	同	民國三年	八,〇〇〇	燈	—	一	—	直流	—	油	二〇
上海南市	華商電氣公司	同	光緒三〇年	四,八六〇,〇〇〇	燈、力、熱	八八二	三	五,五〇〇	交流	五〇	汽	一六,〇〇〇
同　吳淞	閘北水電公司	同	光緒三四年	九,六八〇,〇〇〇	燈、力、熱	三八五	三	三,三〇〇	同	五〇	汽	二〇,五〇〇
同　浦東	浦東電氣公司	同	民國八年	五〇〇,〇〇〇	燈、力、熱	六四	一	二,三〇〇	同	六〇	汽	六〇〇
同　引翔	翔華電氣公司	同	民國一四年	二五〇,〇〇〇	燈、力、熱	—	—	二二〇	同	五〇	電	—
同　眞茹	眞茹電氣公司	同	民國一二年	二七,七〇〇	燈、力	—	—	二三〇	同	五〇	電	—
同　閔行	閔行電燈廠	同	民國七年	三〇,〇〇〇	燈、力	—	一	—	同	—	汽	三八
同共同租界	上海電力公司	英米	光緒一九年	一一六,〇〇〇,〇〇〇	燈、力、熱	—	一五	二二,〇〇〇	同	五〇	汽	一八三,五〇〇
同　法租界	法商電氣公司	佛	光緒三二年	一八,〇〇〇,〇〇〇	燈、力、熱、車	—	八	三,〇〇〇	同	五〇	油	三六,六〇〇
寶山高橋	高橋鎮電燈公司	民營	民國一二年	二〇〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	汽	四六〇
同　羅店	羅店鑫記電燈公司	同	民國一二年	一三,〇〇〇	燈	—	一	—	直流	—	汽	四五
同　大場	大耀餘記電燈公司	同	—	二五,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	汽	三〇
鎮江	大照電燈公司	同	光緒三一年	七〇〇,〇〇〇	燈、力、熱	一四〇	五	三,一五〇	交流	五〇	汽	三,〇七〇

灃陽城	振亨電燈公司	民營	民國四年	八五,〇〇〇	燈	—	一	二,〇〇〇	交流	五〇	汽	一六〇
同　南渡	啓新電燈公司	同	—	—	燈	—	一	—	同	—	汽	六四
無錫南延	樺々電燈公司	同	民國一二年	五〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	瓦	一〇〇
同　開原	開原電燈公司	同	—	三〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	汽	八〇
鹽城	興業電燈公司	同	民國一〇年	五〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	汽	八五
東臺	東耀電燈公司	同	民國八年	七〇,〇〇〇	燈	一七	二	—	同	—	油	九〇
同　溱潼	溱潼電燈公司	同	民國一四年	一〇,〇〇〇	燈	—	一	—	直流	—	油	一五
同　安豐	益豐電燈公司	同	民國一七年	一五,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	油	二〇
如皋	耀如電燈公司	同	民國一〇年	一〇〇,〇〇〇	燈	—	三	—	交流	五〇	油	四七五
同　馬塘	馬塘電氣公司	同	—	—	燈	—	一	—	直流	—	油	二〇
同　堀港	耀濱電氣公司	同	—	三〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	油	四五
同　白蒲	振蒲電燈公司	同	民國一三年	一五,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	油	一六
靖江羊市里	驥星電燈公司	同	民國一八年	一〇,〇〇〇	燈	八	一	—	同	—	油	三二
泰興	東暘電燈公司	同	民國一〇年	三〇,〇〇〇	燈	一四	一	—	同	—	油	三二
同　黃橋	耀黃電燈公司	同	民國一〇年	四〇,〇〇〇	燈	—	一	—	交流	五〇	油	七三
同　口岸鎮	墟明電燈公司	同	民國一五年	一〇,〇〇〇	燈	—	一	—	直流	—	油	二二
南通縣城	通明電氣公司	同	民國五年	一六八,〇〇〇	燈、力、熱	四七	四	—	交流	六〇	油	三〇〇
同　金沙市	金星電燈公司	同	民國一〇年	一八,〇〇〇	燈	—	一	四,四〇〇	同	五〇	油	四〇
啓東	久明電燈公司	同	—	一〇,〇〇〇	燈	—	一	—	直流	—	油	五
崇明	崇明電氣公司	同	民國十二年	六〇,〇〇〇	燈	—	一	—	交流	—	油	六四

崇明南保鎮	東明電氣公司	同	—	一〇〇〇	燈	一	直流	油	一	一	一
儀徵十二涇	大新電燈公司	同	民國九年	二〇〇〇	燈	一	同	汽	一	一	一
江都鈔關門外	振揚電燈公司	同	民國二年	五〇〇〇	燈	一	同	汽	一	一	一
江都仙女鎮	光華電燈公司	同	民國九年	二〇〇〇	燈	一	交流	汽	一	一	一
無錫禮社	競明電燈公司	同	—	五〇〇	燈	一	直流	油	一	一	一
同	景雲市	廣勤電燈公司	同	民國一〇年	一六〇〇	燈	一	同	油	一	一
同	前洲	大明電燈公司	同	—	一〇〇〇	燈	一	同	油	一	一
同	洛社	洛社電燈公司	同	—	一〇〇〇	燈	一	同	油	一	一
太倉北門外	耀婁電氣公司	同	民國一九年	五〇〇〇	燈	一	直流	汽	一	一	一
同	璜涇鎮	耀明電燈公司	同	民國一九年	四〇〇〇	燈	一	交流	汽	一	一
同	沙溪	沙溪電燈公司	同	民國一〇年	三一五〇	燈	一	同	汽	一	一
同	酗河	友華電燈廠	同	民國一〇年	一〇〇〇	燈	一	直流	油	一	一
金	壇	義利電燈公司	同	民國一〇年	五〇〇〇	燈	一	交流	汽	一	一
宜興東門外	耀宜電燈公司	同	民國七年	四〇〇〇	燈	一	同	汽	一	一	一
宜	興	和橋耀宜第二廠	同	—	一〇〇〇	燈	一	同	油	一	一
同		徐舍耀宜第三廠	同	—	一〇〇〇	燈	一	同	油	一	一
同		楊巷耀宜第四廠	同	—	一〇〇〇	燈	一	同	油	一	一
同		張渚電燈廠	同	—	二五〇〇	燈	一	同	油	一	一
同		蜀山振興電燈公司	同	—	一〇〇〇	燈	一	同	油	一	一
川	沙	大川電燈公司	同	民國一一年	一〇〇〇	燈	一	同	油	一	一

川沙曹鎮	川北電燈公司	民營	—	六〇〇	燈	一	直流	油	一	一	一
常小東門外	熟電燈公司	同	民國四年	二〇〇〇	燈、力	一	交流	油瓦斯	一三五	七	四
常熟支塘鎮	昌明公司	同	—	六〇〇	燈	一	直流	油	一	一	一
常	熟	協豐機器製造廠	同	—	三〇〇	燈、力	一	同	油	一	一
同		耀浦電燈公司	同	—	三〇〇	燈	一	同	油	一	一
吳興盛澤	復興電燈公司	同	民國八年	五〇〇	燈	一	同	油	一	一	一
同	平望	公興電燈廠	同	—	二〇〇	燈	一	同	油	一	一
同	同里鎮	興業電燈廠	同	—	四〇〇	燈	一	同	油	一	一
同	北庫鎮	大埔磚米電燈廠	同	—	六〇〇	燈、力	一	同	油	一	一
同	幸塔鎮	星明磚米電燈廠	同	—	三〇〇	燈、力	一	同	油	一	一
同	橫扇鎮	振湖電燈公司	同	—	三〇〇	燈	一	同	油	一	一
同	黎里鎮	明星電燈公司	同	—	八〇〇	燈	一	同	油	一	一
松	江	松江電氣公司	同	民國二年	二〇〇〇	燈、力	一	直流	油	一	一
同	滴涇	恒利電氣公司	同	—	四〇〇	燈	一	同	油	一	一
同	幸莊	利生電燈磚米廠	同	—	七〇〇	燈、力	一	同	油	一	一
同	楓涇	楓溪電氣公司	同	—	一〇〇〇	燈	一	同	油	一	一
同	亭林	豐盛電氣磚米廠	同	—	四〇〇	燈	一	同	油	一	一
同	葉榭	茂興昶電燈廠	同	—	五〇〇	燈	一	同	油	一	一
青浦章練塘	章明電燈公司	同	民國一四年	五〇〇〇	燈	一	同	油	一	一	一
同	朱家角	珠浦電燈公司	同	民國二年	八〇〇〇	燈	一	交流	油瓦斯	一三	四

金山朱涇	朱經電燈公司	同	一	一	一	一	一	一	一	直流	油
同張堰鎮	振興電燈廠	同	一	一	一	一	一	一	一	同	油
同廊下鎮	信孚電燈廠	同	民國一四年	一	一	一	一	一	一	同	油
同呂港鎮	名華電燈廠	同	—	一	一	一	一	一	一	同	油
同松隱鎮	松隱電燈公司	同	—	一	一	一	一	一	一	同	油
江浦浦鎮	明星電燈廠	同	民國十年	一	一	一	一	一	一	同	油
率賢南橋鎮	立亨電燈公司	同	民國七年	二	一	一	一	一	一	同	油
同青村港	程恒昌電燈廠	同	光緒二十年	三	一	一	一	一	一	同	油
同莊行鎮	合興電燈廠	同	—	一	一	一	一	一	一	同	油
同金瀧橋	振大碾米電燈廠	同	—	一	一	一	一	一	一	同	油
吳縣	蘇州電氣廠	國營	民國一〇年	二六七五	二六七五	二六七五	二六七五	二六七五	二六七五	交流	汽
同望亭分廠		同	民國一三年	一	一	一	一	一	一	同	油
同金墅分廠		同	民國一七年	一	一	一	一	一	一	同	油
同東橋分廠		同	民國一八年	一	一	一	一	一	一	同	油
同黃埭分廠		同	民國一三年	一	一	一	一	一	一	同	油
同陳方鎮	耀錦電氣公司	民營	民國一八年	一	一	一	一	一	一	同	油
同唯亭鎮	明星電燈碾米公司	同	民國一四年	一	一	一	一	一	一	同	油
同角直鎮	新明電氣公司	同	—	一	一	一	一	一	一	同	油
同光福鎮	榮興公司	同	民國一三年	一	一	一	一	一	一	同	油
同橫溪鎮	橫溪電燈公司	同	民國一九年	一	一	一	一	一	一	同	油

吳縣周莊鎮	光華電氣廠	民營	民國一一年	一	一	一	一	一	一	直流	油
同東山鎮	東山電力電燈碾米廠	同	民國一八年	一	一	一	一	一	一	同	油
漂水	慕記開明電燈廠	同	—	一	一	一	一	一	一	同	油
高淳城市	新華承記電燈廠	同	民國一七年	一	一	一	一	一	一	同	油
同東壩鎮	三陽順記電燈廠	同	民國一三年	一	一	一	一	一	一	同	油
嘉定西門外	華興永記電燈廠	同	民國六年	四	一	一	一	一	一	同	油
同安亭	新中華電氣公司	同	民國二〇年	三	一	一	一	一	一	同	油
同黃渡	黃渡電燈公司	同	同	一	一	一	一	一	一	同	油
同南翔	南翔牛明電燈公司	同	民國八年	七	一	一	一	一	一	直流	油
南匯	南沙電燈公司	同	—	二	一	一	一	一	一	交流	汽
同周浦	大明電燈公司	同	民國八年	一	一	一	一	一	一	直流	油
同新場鎮	昌華電氣公司	同	民國一二年	一	一	一	一	一	一	同	油
同大團鎮	耀旭電燈公司	同	—	一	一	一	一	一	一	同	油
丹陽	肇明電燈公司	同	民國九年	一	一	一	一	一	一	同	油
同呂橋	永明電燈公司	同	—	一	一	一	一	一	一	同	油
峴山正陽橋	泰記公司電燈廠	同	民國一〇年	一	一	一	一	一	一	直流	油
江陰北門外	華明電燈公司	同	民國七年	一三	一	一	一	一	一	同	汽二油一
同青暘鎮	青暘電燈公司	同	—	一	一	一	一	一	一	交流	油
興化北門外	興興電燈公司	同	民國一一年	一	一	一	一	一	一	直流	油
寶應	寶明電燈公司	同	民國一二年	一	一	一	一	一	一	同	油

高郵	高郵電燈公司	同	民國一〇年	五〇,〇〇〇	燈	—	一	—	直流	—	汽	五〇
高郭樊譯鎮	大新電氣公司	同	—	四〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	油	二〇
泰縣北門外	振泰電燈公司	同	民國六年	一二五,〇〇〇	燈	二四	一	—	交流	—	瓦	一〇〇
同 曲塘鎮	咸明電氣公司	同	民國一四年	二五,〇〇〇	燈	—	一	—	直流	—	油	二〇
同 姜堰鎮	姜華電燈公司	同	民國一二年	三〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	油	五〇
同 海安市	海安市電氣公司	同	—	二五,〇〇〇	燈	—	一	—	交流	—	汽	四〇
六合	耀棠電燈公司	同	民國五年	二〇,〇〇〇	燈	—	一	—	直流	—	油	四〇
阜甯東坎	淮東電燈廠	同	民國一二年	九,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	油	一八
江都大橋鎮	大明電燈公司	同	民國一四年	一〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	油	一四
淮陰	利淮電燈公司	同	民國八年	一〇〇,〇〇〇	燈	—	一	—	交流	五〇	汽	四〇
淮安	新華電燈公司	同	民國九年	一〇〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	汽	六三
海門北市	海明電氣公司	同	民國八年	六〇,〇〇〇	燈、力	二〇	一	—	同	六〇	油	一〇〇
東海新浦	新東電燈公司	同	民國一二年	七五,〇〇〇	燈	一四	三	—	同	—	油	七五
灌雲	灌雲電燈公司	同	—	五〇,〇〇〇	燈	—	一	—	同	—	油	七五
同 三新市	楊家集電燈公司	同	—	一,〇〇〇	燈	—	一	—	直流	—	油	二〇
銅山東關外	耀華電氣公司	同	民國八年	三〇〇,〇〇〇	燈、力	三九	三	—	交流	—	瓦 汽	九三五
豐縣	豐縣電燈公司	同	民國一九年	五〇,〇〇〇	燈	—	一	—	—	—	汽	二七
浦口	津浦鐵路電燈廠	國營	民國九年	九〇〇,〇〇〇	燈、力	—	二	六,六〇〇	交流	五〇	汽	一,五五〇
計	一三五箇所	—	—	一六五,四八七,五五〇	—	—	二一〇	—	—	—	—	三一五,四五五

江蘇省自家用發電所一覽表

所在地	事業者	經營別	設立年	原動力	發電容量(KW)
上海	怡和紗廠	英商	光緒二十一年	汽	三,〇〇〇
同	公益紗廠	同	同 三十三年	同	三,〇〇〇
同	楊樹浦紗廠	同	民國三年	同	
同	上海紡織株式會社	日商	光緒二十二年	同	四,一七九
同	公大紗廠	同	民國十一年	同	二,五〇〇
同	日華紗廠	同	光緒二十二年	同	七,〇〇〇
同	內外紗廠	同	民國十三年	同	一一,七五〇
同	豐田紗廠	同	同 十年	同	四,〇〇〇
同	東華紗廠	同	同 十八年	同	一,一〇〇
同	東洋紗廠	同	同 二年	同	三,〇〇〇
同	大日本紗廠	同	同 十年	同	二,五〇〇
同	同興紗廠	同	同 十一年	同	二,七〇〇
同	日華紗廠	同	光緒二十二年	同	二,〇〇〇
同	華東紗廠	同	—	—	一,二五〇
同	東洋紗廠	同	民國十一年	—	三,八五〇
同	申新第五紗廠	中國商	光緒二十一年	汽	一,〇一〇
同	鴻章紗廠	同	民國九年	同	八五〇
同	三新紗廠	同	光緒二十一年	同	一,二七〇
同	永安第一第二紗廠	同	民國一〇年	同	三,五〇〇

同	鴻裕紗廠	同	同	同	三	一、六〇〇
同	溥益第一第二紗廠	同	同	同	六	一、六五〇
同	厚生紗廠	同	同	同	年	二、七八七
同	緯通紗廠	同	同	同		六〇〇
同	純益紗廠	同	同	同		二、〇〇〇
同	恆大紗廠	同	同	同	九	一、一〇〇
同	久興紗廠	同	同	同	八	七五〇
同	振華紗廠	同	同	光緒	三	三五〇
同	大華夏記紡織公司	同	同	民國	九	一、〇〇〇
同	振泰紗廠	同	同	同	八	八六七
同	華豐紗廠	同	同	同		一、〇〇〇
同	民生紗廠	同	同	同	一	六〇〇
同	大通紗廠	同	同	同	一	二五〇
同	達豐染織廠	同	同	同	二	一、四七〇
同	滬寧鐵路機器廠	同	同	同		三九二
同	江南造船所	同	同	同		六九
同	上海兵工分廠	同	同	同		五〇〇
同	上海兵工廠	同	同	同		一二五
同	上海水泥公司	中國商民	同	汽		一、二〇〇
同	交通橡膠製物廠	同	同	同	一〇	（タービン）
同	正泰橡膠製品廠	同	同	同	一九	（タービン）
英美煙公司		英商	同	汽	一六	一、三五〇
中央煤球公司		中國商民	同	汽	一五	三〇

上	海江南製紙公司	中國商民	同	汽	民國一六年	六七〇
鎮	江同分廠	同	同	同	一七年	五、〇〇〇
崇	明大通紗廠	同	同	同	九年	七五
南	京金陵兵工廠	國營	同	汽一油一	一五年	一五五
同	大同麵粉公司	英商	同	同	一七年	五〇
同	楊子麵粉廠	中國商民	同	油	一	一五
同	和記蛋廠	同	同	同		
無	錫振新紗廠	光緒	三二年	汽	民國元年	二、七四〇
同	慶豐紗廠	民國	一〇年	同	九年	二、六〇〇
同	新紗廠	同	同	同	同	六、五六〇
同	麗新紗廠	同	同	同	同	一、〇〇〇
同	中國水泥公司	同	同	同	同	二、〇〇〇
句	容中國水泥公司	同	同	同	同	二、五八〇
蘇	州蘇綸紗廠	同	同	同	同	二〇〇
同	華盛益記紙版廠	同	同	同	同	八
武	進民豐紗廠	同	同	同	八年	五〇〇
徐	州隴海鐵路機器廠	國營	同	汽	同	一〇
南	通大生第一紗廠	中國商民	光緒二二年	油	民國一〇年	五四〇〇
同	大生第六紗廠	同	同	同	一一年	四〇〇
同	久安紗廠	同	光緒二二年	汽	一一年	七五〇
同	廣生榨油公司	同	同	同	一一年	一
同	華東煤礦公司	同	同	同	一一年	四〇
銅山		同	同	同	一一年	一〇八、〇〇二
計	六四箇所	同	同	同	一九年	

浙江省電氣事業

第三編　浙江省電氣事業

梗概

本編は浙江省に於ける
電氣供給事業
自家用發電所
計
につき調査概說せるものなり。

一二〇箇所　三五、八三一KW
七箇所　七〇七KW
一二七箇所　三六、五三八KW

梗概

本編は浙江省に於ける電氣供給事業自家用發電所計一二〇箇所三五、八三一KW につき調査概説せるものなり。

一二〇箇所	三五、八三一KW
七箇所	七〇七KW
一二七箇所	三六、五三八KW

第一章　總　說

本章は民國二十二年十一月發行中國實業誌浙江省より抜萃飜譯せるものなり。

第一節　沿　革

浙江省に最初設立されし電氣廠は杭州電氣廠にして當初大有利電燈公司と稱し宣統二年に創設商人出資に依り組織し資本銀三萬元電燈三、〇〇〇燈を有し其の營業區域は杭州省城內外及江干、湖墅、拱宸橋一帶に供給し電燈廠を城內板兒巷に設置せしが民國五年に至り電燈一〇、〇〇〇燈に增加せるも廠財政甚だ困難に遭遇し爲に發展擴張容易ならず止むを得ず官商合辦に改められ資金二十萬元となり內官有資本七萬元、商人出資十三萬元とし設備を擴大せり。城內板兒巷に有する瓦斯エンヂン三基は各基容量一六〇KWにして尙四〇〇KWのタービン發電機一基を增設し一般の需要に應じ其後需用の增加に更に一、〇〇〇KWのタービン發電機を据付たり。

民國十年資本金七十萬元に增加し其後尙二回の增資をなし第一回百四十萬元に第二回目には二百萬元に增資し拂込金一百九十八萬五千九百元內官有資本金四十三萬五千元商人出資金一百五十五萬元にして從來電燈廠の地點適當ならざるを以つて民國十一年に艮山門外に別に

新廠を建設しタービン發電機容量八〇〇KW一基、一、三〇〇KW一基、二、〇〇〇KW一基を設備し、民國十八年に至り浙江省政府に回收し省辦に改められ特に電氣局を設置し其の主管機關となし尙閘口に六〇、〇〇〇KWの大發電廠を計畫、先づ發電機七、五〇〇KW二基設備し同時に杭州を中心とし四方に高壓送電線を建設し以つて江、浙各地其他電廠と聯絡することを計畫し後民國二十年夏季に至り省政府經濟の破綻に際會し高壓送電線計畫竝閘口新廠建設工事も頓挫し其の實現も危まれ寧ろ中止の情勢に至りしも其後抵當條件借款契約成立に依り事業を上海企信銀團に讓渡し其の經營を繼續せり。これ浙江省に於ける最大電氣廠の今日に至る發展經過の概略なり。

其他各縣に於ける電氣廠の成立は悉く杭州電氣廠の後にして總て民國年代の創設なり、其內十二箇所の設立年月不明のもの、外民國元年より五年迄に八箇所、六年より十年迄に二十箇所、十一年より十五年迄に四十五箇所、十六年より二十年迄の間に三十三箇所、二十年以後には僅かに一箇所のみなり。

設立年月	都市廠數	鄉村廠數	廠數計
宣統二年	一		一
自民國元年至民國五年	五	三	八
自民國六年至民國十年	一〇	一〇	二〇
自民國十一年至民國十五年	一九	二六	四五
自民國十六年至民國二十年	一六	一七	三三
民國二十年以後	一	一	二
設立年月不明	一	一一	一二
計	五三	六七	一二〇

年度別建設廠數竝地方別を表示すれば右の如し。

設立の年月を以つて論ずれば浙江省電氣廠發展の趨勢は都會より鄉村に向ふ傾向が見られ、各廠成立の濫觴は必ず都市にして民國元年より五年迄五年間に於ける發展の趨勢も都市の方迅速なり、六年より十年迄の五年間に於ける創設電氣廠の數は都市と鄉村伯仲し、十一年より十五年迄の五年間に於いては創設電氣廠の數は鄉村遙かに都市を凌ぎ現今浙江省中に於ける電氣廠未設各縣城は殆ど鄉村同樣で將來電氣廠の創設發展は必ずや鄉村に於いて大なるものあり。

第二節　現　狀

浙江省の電氣廠は其の業態に依り見る時は四種に分つ可し、第一種は營業範圍最大にして即電燈電力及電熱の供給事業者なり、第二種は範圍稍々小にして電燈電力の供給者で、第三種は範圍極めて小にして電燈のみの供給者なり、第四種は電燈供給の外に精米所を兼營する電氣業者にして凡て鄉村に於ける市鎭及小都邑の電燈廠なり、但全省に就いて論述すれば電燈供給のみの電氣廠は七十九箇所六七%弱を占め次に精米所兼營事業者三十三箇所二七%弱を占め電燈、電力、電熱を供給する電氣廠は八廠

種類	廠數	%
燈、力、熱供給事業者	四	三
燈、力	四	三
燈	七九	六七
燈、精米兼營事業者	三三	二七
計	一二〇	一〇〇

六%弱を占め上表の如し。

今地域の分布狀態に就て見れば浙江省七十五縣に於ける電氣廠の成立せる縣は五十八縣あり、卽ち未設の縣は臨安、於潛、昌化、南田、寧海、天臺、仙居、東湯、湯溪、開化、分水、泰順、遂昌、慶廣、雲和、宣平、景寧等十七縣なり。各縣中電氣廠の最多數を有する縣は吳興にして計八箇所を有し、次は杭縣、嘉興及嘉善の三縣に各六箇所、海寧は五箇所、平湖、桐鄉、長興に各四箇所、其他三箇所を有するは崇德、德清、武康、鎭海、蕭山、餘姚、淳安の七縣、二箇所を有するは餘杭、海鹽、安吉、定海、象山、紹興、諸暨、上虞、嵊縣、臨海、金華、蘭谿、義烏の十三縣にして一廠を有する縣は富陽、新登、孝豐、鄞縣、慈谿、奉化、新昌、黃巖、溫嶺、永康、武義、浦江、衢縣、龍游、江山、常山、建德、桐廬、遂安、壽昌、永嘉、瑞安、樂淸、平陽、玉環、麗水、靑田、緖雲、松陽、龍泉等の三十縣なり。

尙各縣の投資狀態に就て見れば電氣事業に投下する資本の最大箇所は杭縣にして五百八萬一千元、次は鄞縣の百二十萬元、紹興の百萬元、吳興の八十萬元、其他各縣は悉く五十萬元以下なり。三十萬元以上の者は永嘉一縣あり、二十萬元以上の者は嘉興と海寧二縣、十萬元以上の者は鎭海、平湖、臨海、蕭山等四縣、五萬元以上の者は餘杭、餘姚、定海、嘉善、德淸、衢縣、桐鄉、長興、蘭谿、象山、上虞、瑞安等十二縣なり。此外富陽、新登、海鹽、崇德、武康、安吉、孝豐、慈谿、奉化、諸暨、嵊縣、新昌、黃巖、溫嶺、金華、義烏、永康、武義、浦江、龍游、江山、常山、建德、淳安、桐廬、遂安、壽昌、樂淸、平陽、玉環、麗水、靑田、緖雲、松陽、龍泉等三五縣の電燈廠は資本金悉く五萬元以下なり。

各縣に於ける發電容量は杭縣を最高とし計二三、二九〇KW、次は鄞縣の三、四六四KW、吳興は二、二一一、五KW、紹興は一、四二〇KW、永嘉は一、二七〇KW、其他各縣は皆一千KW未滿なり、次に各縣電氣廠數及資本金竝發電容量を示せば左の如し。

表覽一業事氣電別縣各內省江浙

縣名	廠數	資本金(元)	發電容量(KW)	縣名	廠數	資本金(元)	發電容量(KW)
杭縣	6	5,081,000	23,290.0	臨海	2	150,000	145.0
海寧	5	220,000	818.0	黃巖	1	12,000	15.0
富陽	1	20,000	15.0	溫嶺	1	14,000	14.0
餘杭	2	98,000	20.0	金華	2	35,400	76.5
新登	1	13,000	16.0	蘭谿	2	66,000	105.0
嘉興	6	270,000	440.0	義烏	2	18,900	32.5
嘉善	6	71,000	114.0	永康	1	10,000	40.0
海鹽	2	40,000	61.0	武義	1	8,000	20.0
宗德	3	49,600	67.0	浦江	1	5,000	20.0
平湖	4	142,500	303.5	衢縣	1	70,000	60.0
桐鄉	4	67,500	105.0	龍游	1	7,000	15.0
吳興	8	810,400	2,211.5	江山	1	15,000	30.0
長興	4	64,000	159.0	常山	1	40,000	60.0
德清	3	73,000	110.0	建德	1	30,000	55.0
武康	3	38,200	97.0	遂安	3	14,600	20.0
安吉	2	19,600	33.0	桐廬	1	20,000	30.0
孝豐	1	3,000	10.0	淳安	1	6,000	22.0
鄞縣	1	1,200,000	3,464.0	壽昌	1	2,600	12.5
慈谿	1	30,000	24.0	永嘉	1	300,000	1,270.0
奉化	1	25,000	67.0	瑞安	1	50,000	50.0
鎮海	3	160,000	405.0	樂清	1	10,000	—
定海	2	80,000	118.0	平陽	1	10,000	45.0
象山	2	54,000	66.0	玉環	1	8,800	11.0
紹興	2	1,000,000	1,420.0	麗水	1	30,000	26.0
蕭山	3	134,000	244.0	青田	1	12,000	18.0
諸暨	2	33,000	60.0	縉雲	1	6,000	—
餘姚	3	95,000	145.0	松陽	1	21,400	21.0
上虞	2	55,000	75.2	龍泉	1	10,000	25.0
嵊縣	2	42,000	89.0				
新昌	1	7,000	25.0	計	120	10,978,300	35,810.7

第三節　燃料

電燈廠の所要原料は卽燃料なり。浙江省內電燈廠に所要しつゝある燃料は之を三種に分つ其の最も多く用ひられてゐるものは重油にして次は石炭木炭之に次ぐ。

重油は美孚、亞細亞、德士古の三種類あり、美孚及亞細亞は尤一般に使用せられ、德士古は浙江省に於いて其の使用僅少にして美孚首位を占め價格は每噸七十元より百餘元に至り、其價格交通の便不便に依り大いに影響し一定せず。調査に據れば吳興の實價は七〇元、奉化、定海、慈谿、餘姚、富陽、松陽等の地は八十元、嘉興、上虞は八十一元、江山は八十五元、諸暨は八十八元、新登、常山、武義、金華、永康、黃巖等は九十元、龍游、壽昌は九十一元、蕭山は九十四元、遂安及縉雲は百餘元で蓋英、米、露の中國へ輸入する重油は全部上海港に一旦入港して然る後更に各地へ寄港賣込をなす爲交通至便の地低廉なるに反し交通不便の僻地に於いては運賃嵩み自然高價なる理なり。而して浙江省に於いては電氣廠の重油機を發電原動力と爲すもの大多數を占むるにも拘らず重油は大部分本國產にあらず必ず外國より購入せざる可からざることは電界の發展に大なる損失支障なり。

次は石炭なり浙江省內電氣廠に所用する石炭は多く上海より購入し、其國內產石炭は開灤炭首位にして噸價格三十元內外なり。但小規模の電氣廠の大部分は重油機を用ひ石炭燃料を使用する者は全部比較的大なる電氣廠のみなり卽廠數に就いて見れば極めて小數なり。

其次は木炭なり、浙江省衢縣所屬一帶に産する白炭は頗る豐富にして價格も又石炭及重油より低廉なるを以つて衢縣及蘭谿の電氣廠は全部其木炭を燃料とす、價格は一擔百斤僅か二元半內外なり、卽其地の天産物を利用し電氣廠燃料と爲し得ることは全く該兩縣に於ける電氣業者の特色なり。

此外他廠の電氣を購入し營業を爲す電氣廠あり餘杭電氣廠の如き卽之なり該廠は杭州電氣廠の分廠に屬し杭州電氣廠の電氣を購入せり、本廠の如きは發電設備も無く從つて燃料も必要とせざるなり。

第四節　發電

浙江省電氣廠の發電原動力は火力のみなり、其所用する原動機は蒸汽タービン、瓦斯エンヂン重油機關の三種に分つ、省內電氣廠中重油機關を使用する者最も多く其數九十六廠にして八〇%を占め、更に蒸汽タービン、重油機關併用廠を加ふるに於ては八〇%に止まらず、次に瓦斯エンヂンの使用廠は一〇%に及ばず、蒸汽タービンのみを設備する廠は杭州電氣廠なり鄞縣電氣廠は蒸汽タービンと瓦斯エンヂンを併用す、此外に永嘉電氣廠は蒸汽タービンと重油機關を併用す、此外に瓦斯エンヂンと重油機關を併用するもの五廠あり、今設備原動機種別廠數を見るに次表の如し。

浙江省に於ける一二〇電燈廠の總發電所容量は三五、八一〇、七KWにして都市に於いて三三、六四八、七KW九三%強を占め、鄉村は二、一八二KW僅か七%弱なり。都市電氣廠中最大發電容量は二二、一〇〇KWにしてこれ卽浙江省に於ける最大電氣廠杭州電氣廠これなり、鄉村に於ける最大の者は潯震電燈公司、其發電所容量二〇〇KWなり、電氣方式は交流、直流の二種にして大部分電燈廠は交流を採用し供給區域比較的小なるもの及小規模電氣廠に於いては直流式とす浙江省電氣廠中六〇廠は交流にして五〇%を占め、直流式は四七廠三九%強其他十三廠は不明なり。

原動機別表

原動機種類	廠數
重油機關	九六
瓦斯エンヂン	一一
瓦斯エンヂン及重油機關	五
蒸汽タービン	一
蒸汽タービン及瓦斯エンヂン	一
蒸汽タービン及重油機關	一
不明	五
計	一二〇

第五節　需用狀況竝料金

電氣廠の營業範圍は殆ど其地方を限り、城市にある廠は其城市內外を營業區域とし鄉村の電氣廠は其所在地を限り、需用家數は杭州を最多とし二三、四二二戶、次は鄞縣なり五、五三三戶、永嘉は四、六九〇戶にして吳興は二、六四三戶、紹興は二、二一〇戶、嘉興の永明は一、九五八戶なり、其他の電氣廠は需用戶數悉く一千戶に達せざるなり。

電氣料金は電燈、電力、電熱の三種とし、電燈は定額と從量に分ち、定額燈は十六燭光を標準とし

月一燈當り一元乃至一元五角の間にあり、月一燈一元二角より一元四角迄でを最も普通とす、一元四角以上の料金は極く稀れなり。從量燈は計量器に依り一KWH二角より三角迄なり就中紹興漓渚の振興電燈精米廠の料金は一KWH一角九分にして最廉なり、其他は悉く二角以上二角四分より三角迄なり。電力供給の廠は其數少く料金は一KWH四分より一角六分、杭州電氣廠を最低とし一KWH四分より六分四厘迄なり。奥興菱湖の明湖電燈公司は最高に屬し一KWH一角六分なり。

電熱料金は殆ど從量燈料金又は電力料金と同一なり。

電氣の用途に就ては其電氣廠の營業種目に依り定まり浙江省内各電氣廠は少數の電力、電熱の供給事業者を除けば殆ど電燈供給事業者なり、卽電力の利用は餘り多く認めず僅かに利用されあるものも蓋工業方面なり、農業方面は精米所利用の外未だ他方面の利用を見ず。

第二章　各　說

第一節　杭州　杭州電氣公司

一、沿　革

宣統二年資本金三萬元を以て大有利電燈公司設立され、民國六年官民合辦二十萬元に增資、次で民國十八年二百萬元の省營となり、杭州電氣廠と改稱せしが、民國二十一年七月本廠を企信銀團に委託し、銀團は更に杭州電氣公司をして經營せしむるに至り、目下の資本金は三百萬元なり。

發電所は初め城内に一六〇KW三臺を据付け開業せるが、其後四〇〇KW一臺及一、〇〇〇KW一臺を增設せり。

民國十年資本金を七十萬元に增資すると共に同十一年水利便なる艮山門に發電所を建設し八〇〇KW一臺、二〇〇〇KW一臺、二、三〇〇KW一臺据付けたるが民國十九年閘口に地を卜し六、〇〇〇KWの大發電所建設に著手、同年七、五〇〇KW二臺の据付を了せり。

二、發電所設備

發電所容量　三相交流(三箇所合計)　二三、一〇〇KW

城内發電所

汽罐

種類	B W	
製作者	B W	
汽壓封度		一六〇
加熱面平方呎	三二一四〇	二、八五〇
汽溫F		四七〇
臺數	一	二

原動機

種類	汽機	タービン
製作者		G E
容量KW		一、〇〇〇
廻轉數	三、〇〇〇	三、〇〇〇
臺數	一	一

發電機

種類	三相交流	三相交流
製作者	G E	G E
電壓	五二五〇	五二五〇
容量KW	一六〇	一、〇〇〇
周波數	五〇	五〇

汽罐

種類	水管式	スターリング
製作者	伊利	スターリング
汽壓封度		
加熱面平方呎	三、〇八〇	三二一〇
汽溫F		
臺數	一	一

原動機

種類	タービン	タービン
製作者	G E	G E
容量KW	四〇〇	一、〇〇〇
廻轉數	三、〇〇〇	三、〇〇〇
臺數	一	一

發電機

種類	三相交流	三相交流
製作者	G E	G E
電壓	五二五〇	五二五〇
容量KW	四〇〇	一、〇〇〇
周波數	五〇	五〇

汽罐

廻轉數	三、〇〇〇	
臺數	一	
据付年	一九一九	一九二一

註　一六〇KW三臺及四〇〇KW一臺は使用に堪へず。

長山門發電所

汽罐

種類	B W	
製作者	B W	
汽壓封度		
加熱面平方呎	一七五	
汽溫F	三三〇〇	
臺數	五三〇	
	八	

原動機

種類	タービン	タービン
製作者	B B C	A E G
容量KW	二、〇〇〇	二、三〇〇
廻轉數	三、〇〇〇	
臺數	二	一

發電機

種類	タービン	
製作者	H W	
容量KW	八〇〇	
廻轉數	三、〇〇〇	
臺數	一	

種類	三相交流	三相交流
製作者	WH	BBC
電壓	五、二五〇	五、二五〇
容量KW	八〇〇	二、〇〇〇
周波數	五〇	五〇
廻轉數	三、〇〇〇	三、〇〇〇
臺數	一	二
据付年	一、九二〇	一、九二二

閘口發電所

汽罐

種類	スターリング(微粉炭燃燒)	
製作者	American International Combustion Enginering Corp.	
汽壓	四五	
加熱面平方呎	一〇、四〇〇	
蒸發量封度	八〇、〇〇〇	
臺數	二	

原動機

種類	タービン	
製作者	BTH	

容量KW	七、五〇〇	七、五〇〇
廻轉數	一、五〇〇	一、五〇〇
臺數	二	二

發電機

種類	三相交流	三相交流
製作者	BTH	AEG
電壓	一四、〇〇〇	六、六〇〇
容量KW	七、五〇〇	二、八〇〇
周波數	五〇	五〇
廻轉數	一、五〇〇	一、五〇〇
臺數	二	二
据付年	一、九三〇	民國二十二年

負荷狀況

尖頭負荷	四、六〇〇KW
平均負荷	一、八〇〇KW
負荷率	三八%
一KWH石炭消費量	四一%
	〇、七三斤

三、電線路（民國二十年）

電柱數　七、八〇〇本
送電線　四一哩
配電線　一〇〇哩
電壓　送電線　五、二五〇V
　　低壓　三八〇V
　　二二〇V

四、收支（民國二十年四月分）

收入

電燈收入	九五、八四二・一一元	
電力收入	一七、五五八・六四	
電熱收入	六四〇・八五	
其他收入	一二八・四四	
計	一一四、一七〇・四〇	

支出

發電費	三三、四八六・三一	
饋電費	八、三一〇・六七	
業務費	一、一七八・四〇	
需用家費	二、八〇六・四四	
會計費	九四七・六一	
總務費	五、〇五三・四七	
其他	九、〇六二・三一	
計	六〇、八四五・二一	
利益	五三、三二五・一九	

五、需用狀況

電燈需用家	一八、〇〇〇戶	四、〇〇〇馬力
電力需用家	四六〇戶	
計	一八、四六〇戶	

六、料金（民國二十三年九月現在）

電燈

定額燈（新增設は中止せり）	二五W	〇・八〇
從量燈	一KWH	〇・二〇

電力

每馬力每月	一〇〇KWH以內	一KWH　〇・〇六四
	二〇〇同	同　〇・〇五八
	三〇〇同	同　〇・〇五三
	四〇〇同	同　〇・〇四八

五〇〇KWH以内　一KWH　〇・〇四四
五〇一KWH以上　同　〇・〇四〇
十〇〇馬力以上　協定　同　〇・〇五〇
電熱
大量使用は協定す

第二節　杭州　華豐紙廠

BW汽罐加熱面各二、四〇〇平方呎　二臺
コーリス複式汽機　三〇〇馬力　一臺
複式變速汽機　一五〇馬力　一臺
高速汽機　一〇〇馬力　一臺
發電機　二〇KW　一臺
ある由なるも內容不明なり。

第三節　嘉興　民豐紙廠

汽罐　汽壓　一五〇封度　二臺
汽機　三〇〇馬力　一臺
デーゼル　四五〇馬力　二臺
發電機　五〇KW　二臺
ある由なるも內容不明なり。

第四節　嘉興　嘉禾染織廠

デーゼル機關三二馬力一臺、二〇馬力一臺、一六馬力一臺を有し、發電機二臺を有する由なるも內容不明なり。

第五節　吳興　吳興電氣公司

一、沿革

民國三年の創立にして資本金六十萬元なり。

二、發電所設備

發電所容量

汽機	三相交流	一、八五二KW
デーゼル機關	三臺（九〇〇馬力）	
發電機	三臺（一、六〇〇馬力）	
有する由なるも內容不明なり。	六臺	

三、料　金（民國二十三年九月現在）

從量燈	三〇〇KWH以內	一KWH　〇・二四
	七〇〇同	同　二・五%引
	一、〇〇〇同	同　五・〇%引
	一、〇〇〇KWH以上	同　一〇・〇%引
電力		同　〇・〇八
電熱	一KWH	〇・一二乃至　〇・〇八

第六節　長興　長興煤礦局

一、沿　革

民國三年創立，資本金六百三十萬元の民營公司にして一日六五〇噸の石炭を產出しつゝあり。

二、發電所設備

發電所容量

汽罐

種類		ランカッシャー
製作者		水管式

汽機

種類		交流
製作者		四八〇KW
馬力數		
廻轉數		
臺數		

發電機

種類		三相交流
製作者		
電壓		一六〇
容量KW		五〇
周波數		
臺數		

第七節　寧波　永耀電力公司

一、沿　革

民國六年創立にして資本百七十五萬元なり。

二、發電所設備

發電所容量	三相交流	四、四六四KW
汽罐		
不明		
原動機		
種類	タービン	タービン
製作者	AEG	BBC
容量KW	六五〇	二、五〇〇
廻轉數		三、〇〇〇
臺數	二	一
發電機		
種類	三相交流	三相交流
製作者	AEG	BBC
電壓	二、四〇〇	二、三〇〇
容量KW	六五〇	二、五〇〇
周波數	五〇	五〇
廻轉數		三、〇〇〇
臺數	二	一
据付年	一、九二三—一、九二五	一、九二九

註　外に汽機發電機四臺六六四KWあるも內容不明なり。

三、料金（民國二十三年九月現在）

定額燈	二〇W	一・四〇
從量燈	一KWH	〇・二五
電力		
每馬力每月	五〇KWH以內	一KWH　〇・一〇
	一五〇同	同　〇・〇九
	二五〇同	同　〇・〇八
	三五〇同	同　〇・〇七
	四五〇同	同　〇・〇六
	四五一KWH以上	同　〇・〇五

第八節　紹興　大明電燈公司

一、沿革

民國元年の創立にして資本金百萬元なり。

二、發電所設備

發電所容量

汽罐	三相交流	一、六四八KW
デーゼル機關	一臺	一三六
瓦斯機關	三臺	〇・二七
	一臺	

を有し居る由なる內容不明なり。

三、料金（民國二十三年九月現在）

從量燈	一KWHにつき	〇・一〇〇―〇・〇八〇
電力	一KWHにつき	〇・〇九五―〇・〇七五
每馬力每月	五〇KWH以內	〇・〇九〇―〇・〇七〇
	一〇〇同	〇・〇八五―〇・〇六五
	一五〇同	〇・〇八〇―〇・〇六〇
	二〇〇同	〇・〇七五―〇・〇五五
	二五〇同	〇・〇七〇―〇・〇五〇
	三〇〇同	〇・〇六五―〇・〇四五
	三五〇同	
	三五〇KWH以上	

一〇〇馬力以上　別に協定す。

第九節　永嘉　普華興記電氣公司

一、沿革

民國二年の創立にして資本金四十一萬二千元なり。

二、發電所設備

發電所容量

蒸汽タービン	三相交流	一、一七〇KW
蒸汽汽關	一臺	一五W
	三臺	

を有するも內容不明なり。

三、料金（民國二十三年九月現在）

定額燈		一・三〇
從量燈	一KWH	〇・二四
電力		
每馬力每戶初次	三〇KWH	同　〇・一二
全部	三〇KWH	同　〇・〇九
最低料金		

浙江省電氣事業一覽表

縣別	地名	電氣公司名稱	設立年月	組織性質	資本額(元)	發電容量(KW)	原動機種類	電流種類	電壓(V)	營業需用戶數	備考
杭縣	杭州	杭州電氣公司	宣統二年民營		五〇〇〇〇〇	三、一〇〇	蒸汽タービン	交流	五三五〇	三、四三九	燈、力、熱
	乔司鎮	乔司電氣公司	民國十七年同		六〇〇〇	一〇	油汽機	直流	二二〇	九五	
	塘棲鎮	新明電氣公司	民國八年同		三〇〇〇〇	六八	同	交流	四四〇 二二〇	二七一	
	臨平鎮	臨平興記電氣公司	民國十五年同		二一、〇〇〇	三一	瓦斯機	直流	二二〇	八五	
	瓶窰鎮	官陽電氣公司	民國十二年同		一〇〇〇〇	五一	油機	交流	二二〇	三五三	燈、精米
	留下鎮	福爾康電氣廠	民國十七年同		四、〇〇〇	一	同	直流	二二〇	八〇	燈
海寧	海寧	海寧電廠	民國十七年同	官營	四五〇〇〇	二〇	同	同	二二〇	四〇〇	燈、力
	硤石鎮	硤石電燈公司	民國二年同		八五〇〇〇	一八〇	汽機	交流	二二〇 三八〇	七五〇	燈、力、熱
	長安鎮	長安電氣公司	民國八年同		二五〇〇〇	四〇	油機	同	二二〇	二四〇	燈、力
	袁花鎮	袁花電氣公司	民國十二年同		二五〇〇〇	二八	瓦斯	同	二二〇	二四〇	燈、力
	斜橋鎮	昌大電氣公司	民國十七年同		四〇〇〇〇	一〇	油機	直流	二二〇	一二〇	燈、精米
富陽	富陽	萍利電氣廠	民國十六年同		三〇〇〇〇	一五	同	同	二二〇	一〇	燈
餘杭	餘杭	餘杭電廠	民國十九年同		五〇〇〇〇	—	—	交流	二二〇	六二三	杭州電氣廠より受電（容量一四〇KVA）

閘林鎮	普明電氣公司	民國十八年民營	八〇〇〇	二	油機	—	燈	—	一五	
新登	新興電燈公司	民國十五年同	一五〇〇〇	一六	同	交流	二二〇	燈、精米	一〇	
嘉興	永明電燈公司	民國元年同	三〇〇〇〇	三四〇	汽機	同	二二〇 三八〇	燈	一、九五六	
王店鎮	耀明電燈公司	民國八年同	一五〇〇	二	油機	同	二二〇	同	六八	
新勝鎮	振興電氣公司	民國十一年同	三〇〇〇	四	同	同	二二〇 三八〇	燈、精米	三〇	
新篁鎮	星明電氣公司	民國十六年同	一五〇〇	二	同	直流	二二〇	同	四〇	
王江涇鎮	涇明電燈廠	民國二十年同	一五〇〇	二	同	同	二二〇	同	一〇〇	
新豐鎮	明豐電燈廠	民國　年同	四〇〇	八	同	同	二二〇	燈	一〇〇	
嘉善	昌耀電燈公司	民國十二年同	七五〇〇	三	同	同	二二〇	同	二八	
西塘鎮	普興電燈公司	民國十四年同	四五〇〇	五四	同	交流	二二〇 三八〇	同	四八	
于窰鎮	光耀電燈廠	民國十五年同	一〇〇〇	四	同	直流	二二〇	同	八〇	
陶莊鎮	有利電燈公司	民國十六年同	四五〇〇	九	同	交流	二二〇	同	七一	
楊廟鎮	同仁電廠	民國十五年同	一五〇〇	五	同	直流	二二〇	燈、精米	五六	
天凝莊	啓明電廠	民國十二年同	一、八〇〇	一	同	同	二二〇	燈	—	
海塩	海塩電氣公司	民國九年同	四〇〇〇	四	同	交流	二二〇 三八〇	同	一〇二	
沈蕩鎮	沈蕩電氣公司	民國十五年同	一〇〇〇	一	同	直流	二二〇	同	一五	

崇德	崇德	永民電氣公司	民國十七年	民營	三五〇〇〇	三油機	交流	三三〇	燈、精米	三三五
	石灘鎮	普益電氣公司	民國十二年	同	八〇〇〇	同	同	三三〇	燈	一八四
	洲泉鎮	溥利電燈公司	民國十三年	同	六六〇〇	同	同	三三〇	同	八〇
平湖	平湖	明華電氣廠	民國十八年	同	三三〇〇〇	同	同	三三〇	同	八〇
	乍浦	乍浦電氣公司	民國九年	同	一五〇〇〇	同	同	三三〇	同	一三四
	新埭鎮	新埭電燈廠	—	同	三〇〇〇	同	同	三三〇	同	一三五
	新倉鎮	明星電燈廠	民國九年	同	四五〇〇	九同	同	三三〇	同	八〇
桐鄉	桐鄉	桐鄉電燈事務所	—	同	一七五〇〇	一二五瓦	斯同	三三〇	同	一三五
	烏青鎮	烏青鎮電氣公司	—	同	五〇〇〇	一五五瓦	斯同	三三〇	同	一三五
	濮院鎮	公明電氣公司	民國十一年	同	三〇〇〇	三〇油	機同	三三〇	同	一三五
	屠甸鎮	溥明電氣公司	民國十四年	同	三〇一〇	同	直流	三三〇	同	一三五
吳興	吳興	吳興電氣公司	民國三年	同	二〇〇〇〇	一四〇八	油機交流	五五〇	燈、力、熱	二四三
	雙林鎮	雙林電氣公司	民國十一年	同	五〇〇〇	三〇油	機同	三三〇	燈	一四〇
	菱湖鎮	明湖電氣公司	民國十四年	同	三〇〇〇	三五瓦	斯同	三三〇	同	一四〇
	練市鎮	練市電燈廠	—	同	五〇〇	一二五	直流	三三〇	燈	一五二
袁家滙		穗孚礱米電燈公司	民國十年	同	一〇〇〇	三油	機交流	三三〇	燈、精米	三五
						三〇	同	三三〇	燈	一八四
						一五	同	三三〇	同	八〇
						二五	同	三三〇	同	一三四
						二五	同	三三〇	同	八〇
						一二五	直流	三三〇	同	一三五
						九	同	三三〇	同	八〇
						一二五	直流	三三〇	同	一三五
						二五	同	三三〇	同	一三五
						一五	同	三三〇	同	一三五
						二五	同	三三〇	同	一三五
						三〇油	機同	三三〇	同	一三五
						一四〇八	油機交流	五五〇	燈、力、熱	二四三
						一五五瓦	斯同	三三〇	同	一四〇
						一二五	直流	三三〇	同	一五二
						一五	同	三三〇	同	一三五
						三〇油	機同	三三〇	燈、精米	二四三
						二五	同	三三〇	燈	一五二
						一二五	同	三三〇	同	一三五
						二五	同	三三〇	燈	一五二
						一二五	同	三三〇	同	一三五
						三〇油	機同	三三〇	燈、力	二三三
						一五瓦	斯同	三三〇	燈

慈谿	慈谿	慈明鴻記電燈公司	民國十年	民營	二〇〇	二〇〇	燈
鎖海	鎖海	鎖海電燈公司	民國十一年	同	二五〇	—	同
	柴橋鎖	昭明電氣公司	民國十七年	同	二〇〇	二〇〇	同
		世駟機	明遠電燈廠	—	一〇〇	二〇〇	同
象山	象山	耀華電氣公司	民國十四年	同	二四〇	二〇〇	同
	石浦鎖	明星電氣公司	民國十三年	同	二〇〇	二〇〇	同
定海	定海	舟山電氣公司	民國九年	同	五〇〇	二〇〇	同
	沈家門鎖	沈家門電氣公司	民國十三年	同	二〇〇	二〇〇	同
奉化	奉化	奉化電氣公司	民國十五年	同	二五〇	二〇〇	同
紹興	紹興	大明電氣公司	民國元年	同	一〇〇〇	二〇〇	同
	漓渚鎖	振興電氣公司	民國十七年	同	一〇〇	二〇〇	同
蕭山	蕭山	永安電氣公司	民國十四年	同	一〇〇	二〇〇	同
	開堰鎖	明德電氣公司	民國十五年	同	一〇〇	二〇〇	同
	臨浦鎖	乾元電氣公司	民國四年	同	二四〇	二〇〇	同
諸暨	諸暨	諸暨電氣公司	民國六年	同	二〇〇	二〇〇	燈

楓橋鎖	楓橋電氣公司	民國十五年	同	一二〇	二〇〇	燈、精米	一一〇
餘姚	餘姚	餘耀電氣公司	民國六年	同	五〇〇	二〇〇	同
周巷鎖	正大電氣公司	民國十九年	同	四〇〇	二〇〇	同	三五〇
馬渚鎖	瑞和電燈公司	—	同	五〇〇	二〇〇	同	四〇〇
上虞	上虞	正大電燈公司	民國十五年	同	五〇〇	二〇〇	燈、精米	一六〇
小越鎖	穗耀電燈碾米廠	—	同	一〇〇	二〇〇	燈、精米	一六〇
嵊縣	嵊縣	開明電廠	民國八年	同	一〇〇	二〇〇	燈	六〇
	崇仁鎖	四面電氣公司	民國十五年	同	二〇〇	二〇〇	同	一三〇
新昌	新昌	金星電氣公司	民國廿一年	同	一〇〇	二〇〇	同	七〇
臨海	臨海	耀明電燈公司	民國十七年	同	五〇〇	二〇〇	同	二五〇
	海門鎖	恒利泰記電氣公司	民國十六年	同	一〇〇	二〇〇	同	五〇
黃巖	黃巖	恒利泰記第二支廠	民國十一年	同	一一〇	—	同	一四
溫嶺	溫嶺	三萬碾米電燈廠	民國十三年	同	一二〇	一〇〇	瓦斯同	一五〇
蘭谿	蘭谿	長明電氣公司	民國十二年	同	二〇〇	二〇〇	燈、精米	二六〇
	游埠鎖	保安電燈公司	民國十一年	同	一五〇	一〇〇	瓦斯交流機	一五〇

慈谿	慈谿	慈明鴻記電燈公司	民國十年	民營	二〇〇	二〇〇	燈
鎖海	鎖海	鎖海電燈公司	民國十一年	同	二五〇	—	同
	柴橋鎖	昭明電氣公司	民國十七年	同	二〇〇	二〇〇	同
		世駟機	明遠電燈廠	—	一〇〇	二〇〇	同
象山	象山	耀華電氣公司	民國十四年	同	二四〇	二〇〇	同
	石浦鎖	明星電氣公司	民國十三年	同	二〇〇	二〇〇	同
定海	定海	舟山電氣公司	民國九年	同	五〇〇	二〇〇	同
	沈家門鎖	沈家門電氣公司	民國十三年	同	二〇〇	二〇〇	同
奉化	奉化	奉化電氣公司	民國十五年	同	二五〇	二〇〇	同
紹興	紹興	大明電氣公司	民國元年	同	一〇〇〇	二〇〇	同
	漓渚鎖	振興電氣公司	民國十七年	同	一〇〇	二〇〇	同
蕭山	蕭山	永安電氣公司	民國十四年	同	一〇〇	二〇〇	同
	開堰鎖	明德電氣公司	民國十五年	同	一〇〇	二〇〇	同
	臨浦鎖	乾元電氣公司	民國四年	同	二四〇	二〇〇	同
諸暨	諸暨	諸暨電氣公司	民國六年	同	二〇〇	二〇〇	燈

楓橋鎖	楓橋電氣公司	民國十五年	同	一二〇	二〇〇	燈、精米	一一〇
餘姚	餘姚	餘耀電氣公司	民國六年	同	五〇〇	二〇〇	同	三五〇
周巷鎖	正大電氣公司	民國十九年	同	四〇〇	二〇〇	同	四〇〇
馬渚鎖	瑞和電燈公司	—	同	五〇〇	二〇〇	同	五〇〇
上虞	上虞	正大電燈公司	民國十五年	同	五〇〇	二〇〇	燈、精米	一六〇
小越鎖	穗耀電燈碾米廠	—	同	一〇〇	二〇〇	燈、精米	一六〇
嵊縣	嵊縣	開明電廠	民國八年	同	一〇〇	二〇〇	燈	六〇
	崇仁鎖	四面電氣公司	民國十五年	同	二〇〇	二〇〇	同	一三〇
新昌	新昌	金星電氣公司	民國廿一年	同	一〇〇	二〇〇	同	七〇
臨海	臨海	耀明電燈公司	民國十七年	同	五〇〇	二〇〇	同	二五〇
	海門鎖	恒利泰記電氣公司	民國十六年	同	一〇〇	二〇〇	同	五〇
黃巖	黃巖	恒利泰記第二支廠	民國十一年	同	一一〇	—	同	一四
溫嶺	溫嶺	三萬碾米電燈廠	民國十三年	同	一二〇	一〇〇	瓦斯同	一五〇
蘭谿	蘭谿	長明電氣公司	民國十二年	同	二〇〇	二〇〇	燈、精米	二六〇
	游埠鎖	保安電燈公司	民國十一年	同	一五〇	一〇〇	瓦斯交流機	一五〇

慈谿	慈谿	慈明鴻記電燈公司	民國十年	民營	二〇〇	二〇〇	燈	一二〇
鎖海	鎖海	鎖海電燈公司	民國十一年	同	二五〇	—	同	一
	柴橋鎖	昭明電氣公司	民國十七年	同	二〇〇	二〇〇	同	四三
		世駟機	明遠電燈廠	—	一〇〇	二〇〇	同	一
象山	象山	耀華電氣公司	民國十四年	同	二四〇	二〇〇	同	一八
	石浦鎖	明星電氣公司	民國十三年	同	二〇〇	二〇〇	同	四七
定海	定海	舟山電氣公司	民國九年	同	五〇〇	二〇〇	同	八四
	沈家門鎖	沈家門電氣公司	民國十三年	同	二〇〇	二〇〇	同	三五
奉化	奉化	奉化電氣公司	民國十五年	同	二五〇	二〇〇	同	四三
紹興	紹興	大明電氣公司	民國元年	同	一〇〇〇	二〇〇	燈、力、蘇	二三〇
	漓渚鎖	振興電氣公司	民國十七年	同	一〇〇	二〇〇	燈、精米	一四
蕭山	蕭山	永安電氣公司	民國十四年	同	一〇〇	二〇〇	燈、精米	一
	開堰鎖	明德電氣公司	民國十五年	同	一〇〇	二〇〇	燈、精米	一
	臨浦鎖	乾元電氣公司	民國四年	同	二四〇	二〇〇	同	二〇
諸暨	諸暨	諸暨電氣公司	民國六年	同	二〇〇	二〇〇	燈	一

楓橋鎖	楓橋電氣公司	民國十五年	同	一二〇	二〇〇	燈、精米	一一〇	一一〇	交流	一〇	同	一〇	同	一〇	油機交流	二〇	目下組織變更中
餘姚	餘姚	餘耀電氣公司	民國六年	同	五〇〇	二〇〇	同	三五〇	同	一〇〇	同	一〇	同	一〇	同	一〇	同
周巷鎖	正大電氣公司	民國十九年	同	四〇〇	二〇〇	同	四〇〇	同	四五	同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
馬渚鎖	瑞和電燈公司	—	同	五〇〇	二〇〇	同	五〇〇	同	五五	同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
上虞	上虞	正大電燈公司	民國十五年	同	五〇〇	二〇〇	燈、精米	一六〇	一六〇	油機交流	一四	同	一〇	同	一〇	同	同
小越鎖	穗耀電燈碾米廠	—	同	一〇〇	二〇〇	燈、精米	一六〇	一六〇	同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	一〇	同
嵊縣	嵊縣	開明電廠	民國八年	同	一〇〇	二〇〇	燈	六〇	一三〇	同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
	崇仁鎖	四面電氣公司	民國十五年	同	二〇〇	二〇〇	同	一三〇	一五〇	同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
新昌	新昌	金星電氣公司	民國廿一年	同	一〇〇	二〇〇	同	七〇	一五〇	交流	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
臨海	臨海	耀明電燈公司	民國十七年	同	五〇〇	二〇〇	同	二五〇	一五〇	同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
	海門鎖	恒利泰記電氣公司	民國十六年	同	一〇〇	二〇〇	同	五〇	一五〇	油機同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
黃巖	黃巖	恒利泰記第二支廠	民國十一年	同	一一〇	—	同	一四	一五〇	油機同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
溫嶺	溫嶺	三萬碾米電燈廠	民國十三年	同	一二〇	一〇〇	瓦斯同	一五〇	一〇〇	油機同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
蘭谿	蘭谿	長明電氣公司	民國十二年	同	二〇〇	二〇〇	燈、精米	二六〇	一五〇	油機同	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同
	游埠鎖	保安電燈公司	民國十一年	同	一五〇	一〇〇	瓦斯交流機	一五〇	一〇〇	油機直流	一〇	同	一〇	同	一〇	同	同

孝豐	孝豐鎮	電燈廠	民國十五年	民營	三〇〇	一〇油機	直流	一燈	
義烏	義烏	電氣公司	民國十七年	同	一五〇〇	一〇同	同	一〇同	一五
	佛堂鎮	佛堂電氣公司	民國十五年	同	四二〇	一〇同	同	一〇同	一五
金華	金華	電燈公司	民國十一年	同	二五〇〇	二五同	交流	二五〇同	三五
	孝順鎮	厚生電燈公司		同	一〇五〇	一三同	同	一同	
永康	永康	電燈公司	民國十一年	同	一〇五〇	四〇同	直流	三〇燈、精米	
武義	武義	電燈公司	民國十四年	同	八〇〇	二〇同	同	一燈	
衢縣	衢縣	電氣公司	民國九年	同	五〇〇〇	五〇瓦斯	交流	三二〇〇同	八七
龍游	龍游	電氣公司	民國十四年	同	五〇〇	二五油機	直流	二一〇同	一二
江山	江山	永耀電氣公司	民國十七年	同	一五〇〇	三〇同	交流	四二〇同	一三
常山	常山	華文電氣公司	民國十四年	同	四〇〇	六〇同	同	一同	
建德	建德	建德電氣公司	民國十五年	同	三五〇	五〇同	同	三二〇〇同	六五
淳安	淳安	明樂電燈廠	民國十三年	同	九五〇	一〇同	直流	三〇〇燈、精米	一三〇
	港口鎮	博利安電燈廠	民國十三年	同	三〇〇	四同	同	一燈	
苯國鎮	光華	電燈廠	民國十六年	同	三〇〇	一〇油機	直流	一燈	

桐廬	桐廬	周仁豫正記電燈公司	民國十年	同	一〇〇〇	二〇同	交流	二三〇〇同	二五
遂安	遂安	普明電燈廠	民國十六年	同	六〇〇	一〇同	一	一〇燈、精米	一
壽昌	壽昌	程巍興電燈碾米廠	民國十六年	同	三〇〇	三五同	一	同	
永嘉	永嘉	普華興記電氣公司	民國三年	同	二〇〇〇	一二五〇キロワット油機	交流	二三〇〇燈、力	四六〇
麗水	麗水	普明電燈公司	民國八年	同	四〇〇	二五油機	直流	三〇燈	一四
青田	青田	繼日電氣公司	民國十七年	同	三〇〇	一八同	同	三〇同	一五
松陽	松陽	華陽電燈公司	民國十五年	同	三一〇	三同	同	三〇燈、精米	一
龍泉	龍泉	普耀電燈公司	民國十五年	同	一〇〇	三五同	同	三〇燈	一
瑞安	瑞安	南堤電氣公司	民國十七年	同	一〇〇	五〇瓦斯	交流	三二〇〇燈、力	三五〇
樂清	樂清	樂成電燈公司	民國十七年	同	一〇〇	一油機	一	一燈、精米	一
平陽	平陽	光華電燈碾米公司	民國十五年	同	一〇〇	四同	一	一燈	
浦江	浦江	大光明電燈公司	民國十六年	同	五〇〇	三同	直流	一燈、精米	
玉環	玉環坎門鎮	坎門電燈公司	民國十六年	同	八〇〇	二同	同	三二〇同	二一〇
縉雲	縉雲	光明電燈公司	民國十八年	同	六〇〇	一同	一	一	
計	一二〇箇所				一〇、九五八、〇〇〇	三五、八三〇、七			

浙江省內自家用發電所一覽表

縣別	地名	公司名稱	設立年月	組織	資本額(元)	發電容量(KW)	原動機種類	電流種類	電壓(V)
杭縣	杭州	華豐紙廠	民國十年	民營	五〇〇、〇〇〇	二〇	汽	交流	
同	鼎新	紗廠	—	—	—	一〇〇	—		
同	光華	火柴公司	—	—	—	二	汽		
閘口	滬杭甬鐵路機器廠		—	—	—	五	—		
嘉興	嘉興	民豐紙廠	民國十三年	民營	五〇〇、〇〇〇	一〇〇	汽		
西河街	嘉禾染織廠		民國元年	—	一〇〇、〇〇〇	—	油		
晨興	晨興	煤礦局	民國三年	民營	六、三〇〇、〇〇〇	四八〇	汽		
計七箇所					七、四〇〇、〇〇〇	七〇七			

調查課調查資料刊行物目錄

第一輯　北鐵鐵道沿線に於ける電氣事業概況（絕版）
第二輯　滿洲國內電氣企業計畫經過概要
第三輯　滿洲に於ける自家用發電所
第四輯　滿洲に於ける電氣事業概說（絕版）
第五輯　ソヴエート聯邦に於ける電氣事業概說
第六輯　滿洲及中國に於ける輸入電氣用品に關する調查
第七輯　中華民國に於ける電氣事業（民國二十一年度）
第八輯　主要電氣會社職制集
第九輯　中華民國電氣事業第一卷（江蘇省、浙江省）（未刊）
第十輯　同　第二卷（河北省、山東省）（未刊）
第十一輯　中華民國に於ける電氣事業法規集（第一編）（未刊）
第十二輯　同　（第二編）（未刊）
第十三輯　同　（第三編）（未刊）
第十四輯　最近十箇年間に於ける電氣關係主要文獻目錄（未刊）
第十五輯　中華民國に於ける電氣事業（民國二十二年度）（未刊）
第十六輯　中華民國電氣事業標準會計科目制度（未刊）
第十七輯　滿洲國公司法竝電氣事業法規集（未刊）

14.5
415

終